

京都市内遺跡試掘調査報告

平成26年度

2015年3月

京都市文化市民局

京都市内遺跡試掘調査報告

平成26年度

2015年3月

京 都 市 文 化 市 民 局



巻頭図版1 拝殿の礎石・差し石列（南東から・第V章-2）



巻頭図版2 北東隅礎石撤去状況（南から・第V章-2）

ご あ い さ つ

京都市は、旧石器時代から近現代に至るまで、日本の歴史を考えるうえで欠かせない多くの有形無形の文化財を有しています。特に平安京建都以降は、長く我が国の中心的役割を果たし、その重ねられた時間の中で育まれた華麗かつ繊細な文化が、今なお伝え続けられている世界有数の文化都市でもあります。

埋蔵文化財も同様に、市街化区域では全体の4割を超える区域が、埋蔵文化財包蔵地に該当します。こうした幾層にも積み重なった遺跡は、本市でしか得られない情報を提供し、我が国の歴史や文化を理解する上で欠かすことができない国民共有の財産といえます。

本市では先人が残した貴重な埋蔵文化財を適切に後世に伝える責務を果たし、将来にわたって日本文化を国内外に発信していけるようその活用に取り組んでいます。

この度、平成26年度に文化庁の国庫補助を得て実施した埋蔵文化財の調査成果をまとめた報告書を作成いたしました。この報告書が、京都の歴史と文化財への理解と関心を深めるために、広く活用いただければ幸いに存じます。

文末になりましたが、各調査の実施にあたり、御理解、御協力を賜りました市民の皆様と御指導を賜りました関係機関の皆様にも厚く御礼申し上げます。

平成27年3月

京都市文化市民局文化芸術担当局長

奥 美里

例 言

- 1 本書は、京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した平成26年度の京都市内遺跡試掘調査報告書である。平成26年1月から12月まで実施した試掘調査のうち、重要な成果のあったものについて本文で報告している。ただし、試掘調査の結果、発掘調査を指導したのものについては、発掘調査報告書の刊行を待つこととし、一覧表にのみ掲載している。

試掘調査を実施したすべての地区・所在地・調査日・調査概要については、試掘調査一覧表に掲載している(34～40頁)。なお、各章表題末尾の番号と調査一覧表の番号並びに図版の番号は対応している。

- 2 本文の執筆分担は、本文の末尾に記している。
- 3 本書報告の調査のうち、基準点測量を実施した調査の方位及び座標は、世界測地系平面直角座標系VIによる。標高はT.P.(東京湾平均海面高度)による。また、これ以外の場合は、既存公共物などを仮基準点(KBM)として用いている。

- 4 本書に使用した地図は、本市の都市計画局発行の都市計画基本図(縮尺1/2,500)を複製して調整したものを掲載している。なお図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版1～13 1/8,000 図版14～20 1/10,000

- 5 本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は、一部を除き、小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年の研究」『研究紀要』第3号(財)京都市埋蔵文化財研究所1996年に準拠する。

- 6 本書に使用した土壌色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳』に準じた。

- 7 遺物整理に当たっては、岩本淳子・上茶谷美保・上別府亜紀・菅生春美・西山史一・榎井巧・義井良作・吉本健吾の協力を得た。

- 8 調査及び本書作成は、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課が担当し、(公財)京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。

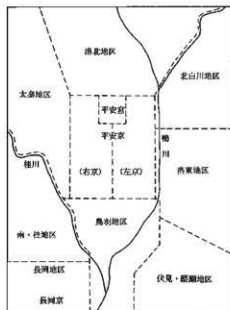


図1 調査地区分割図

本文目次

I	試掘調査の概要	1
II	平安宮	3
1	中務省跡（上京区中務町 486-26）	3
2	朝堂院跡・聚楽遺跡（中京区聚楽廻東町 20-8）	6
3	治部省跡（中京区聚楽廻西町 188-4 の一部他）	12
III	平安京左京	16
	二条三坊十一町跡（中京区室町通夷川上る鏡屋町 39-1, 42）	16
IV	平安京右京	18
	六条一坊十五町跡（下京区中堂寺庄ノ内町 46-7, 50-2）	18
V	そのほか市内遺跡	21
1	松本古墳群（右京区太秦松本町 5-36）	21
2	史跡賀茂別雷神社境内（北区上賀茂本山 339）	24
3	法勝寺跡・岡崎遺跡（左京区岡崎南御所町 15 の一部他）	27
4	六波羅政庁跡（東山区大和通五条上る山崎町 360 他）	32
VI	試掘調査一覧表	34
	報告書抄録	41

図 版 目 次

巻頭図版 1 拝殿の礎石・差し石列

巻頭図版 2 北東隅礎石撤去状況

図版 1 平安宮

図版 2 平安京左京北辺～三条 一・二坊

図版 3 平安京左京北辺～三条 三・四坊

図版 4 平安京左京 四～六条 一・二坊

図版 5 平安京左京 四～六条 三・四坊

図版 6 平安京左京 七～九条 一・二坊

図版 7 平安京左京 七～九条 三・四坊

図版 8 平安京右京北辺～三条 三・四坊

図版 9 平安京右京北辺～三条 一・二坊

図版 10 平安京右京 四～六条 三・四坊

図版 11 平安京右京 四～六条 一・二坊

図版 12 平安京右京 七～九条 三・四坊

図版 13 平安京右京 七～九条 一・二坊

図版 14 嵯峨遺跡・史跡・名勝嵐山

図版 15 梅津坂本町遺跡・松本古墳群・衣笠水室町遺跡・雲林院跡・北野遺跡・北野天満宮・寺ノ内旧域・上京遺跡・上総町遺跡・池田町古墳群

図版 16 植物園北遺跡・六波羅政庁跡・大宅廃寺・尊勝寺跡・法勝寺跡・延勝寺跡・得長寿院跡・白河街区跡・岡崎遺跡・左義町遺跡・山科本願寺跡・山科本願寺南殿跡

図版 17 中臣遺跡・史跡随心院境内・極楽寺跡・伏見城跡・唐橋遺跡

図版 18 鳥羽離宮・鳥羽遺跡・芹川城跡

図版 19 大藪遺跡・中久世遺跡・上久世遺跡・塚ノ本古墳・檉原遺跡・長岡京跡

図版 20 長岡京跡・大藪遺跡・久我神社・久我東町遺跡・鶏冠井水遺跡

挿 図 目 次

例 言	
図 1 調査地区割図	ii
試掘調査の概要	
図 2 年次別・地区別試掘調査実施件数	1
平安宮中務省跡・聚案遺跡	
図 3 調査位置図	3
図 4 調査区配置図	3
図 5 調査区実測図	4
図 6 中務省跡調査位置図	5
平安宮朝堂院・聚案遺跡	
図 7 調査位置図	6
図 8 調査区配置図	6
図 9 遺構平面・断面図	7
図 10 遺物実測図	7
図 11 奈良時代以前遺跡調査位置	8
平安宮治部省跡	
図 12 調査位置図	12
図 13 調査区配置図	13
図 14 遺構平面・断面図	14
図 15 調査区全景（南から）	15
図 16 2Tr. 南壁築地部分断面（北から）	15
平安京左京二条三坊十一町跡	
図 17 調査位置図	16
図 18 調査区配置図	16
図 19 4Tr. 平面・断面図	17
図 20 出土遺物実測図	17
平安京右京六条一坊十五町跡	
図 21 調査位置図	18
図 22 調査区配置図	18
図 23 試掘調査区実測図	19

図 24	A-A' 間断面図	19
図 25	遺物実測図	20
図 26	木製品	20
松本古墳群		
図 27	調査位置図	21
図 28	調査区配置図	21
図 29	水田区画と調査地	22
図 30	遺構平面・断面図	23
史跡賀茂別雷神社境内		
図 31	調査位置図	24
図 32	山口社基壇及び礎石等平面図	25
法勝寺跡・岡崎遺跡		
図 33	調査位置図	27
図 34	調査区配置図	27
図 35	調査区実測図	28
図 36	1Tr. 全景（東から）	28
図 37	2Tr. 溝 4（南東から）	28
図 38	出土土器実測図	29
図 39	出土瓦拓影・実測図	29
図 40	礎石 9 実測図	31
図 41	礎石 9	31
図 42	調査地に所在する礎石	31
六波羅政庁跡		
図 43	調査位置図	32
図 44	調査区配置図	32
図 45	遺構平面・断面図	33
図 46	SK01 出土遺物実測図	33

表 目 次

表 1	奈良時代以前遺跡調査概要表 (1)	9
表 2	奈良時代以前遺跡調査概要表 (2)	10
表 3	奈良時代以前遺跡調査概要表 (3)	11
表 4	出土瓦観察表	29

I 試掘調査の概要

1 京都市内の埋蔵文化財行政

京都市で所管する周知の埋蔵文化財包蔵地（以下遺跡という。）は、京北町との合併に伴う遺跡地図の改訂を経て、792件を数える。その範囲内でおこなわれる土木工事に対しては、遺跡の重要度と工事規模に応じて「慎重工事」・「詳細分布調査」・「試掘調査」・「発掘調査」の4種の行政指導をおこなっている。この指導業務は、当初、文化財保護課がおこない、昭和55年の京都市埋蔵文化財調査センター設立以後はセンターが担当してきた。しかし、センターが平成18年4月1日付けて文化財保護課と統合され、現在は文化財保護課埋蔵文化財係が担当している。

行政指導に基づいて実施される調査には、国庫補助による調査と原因者負担による調査があるが、詳細分布調査と試掘調査、発掘調査の一部については国庫補助事業として実施している。このうち、詳細分布調査と発掘調査は公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所（以下「埋文研」という。）へと委託してきたが、平成26年4月1日から、全て文化財保護課埋蔵文化財係が担当しており、その成果は、別冊の報告書により報告される。

本報告書は、平成26年1月～12月に文化財保護課が実施した、国庫補助事業による試掘調査を取りまとめたものである。文化財保護課で実施する試掘調査は、届出や通知を受けた工事予定地内における遺跡の有無、あるいは遺跡の残存状況やその範囲を把握し、遺跡が良好に存在し、工事がその遺跡を破壊する場合には発掘調査を指導し、設計変更などにより遺跡の保護が可能であれば開発者に対して遺跡保護の措置を指示するなど、文化財保護行政上、非常に重要な業務であり、現在は9名の技師が常時、従事している。

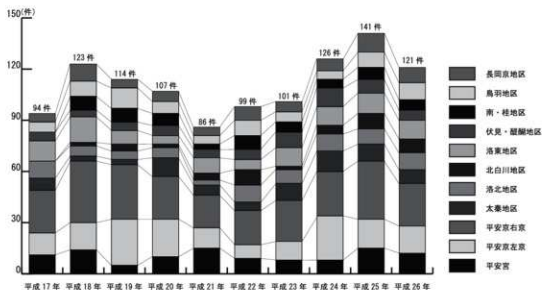


図2 年次別・地区別試掘調査実施件数

平成26年1月～12月に文化財保護法に基づいて提出された届出(文化財保護法第93条)・通知(同法第94条)件数は、総数で1,095件になる。これは前年比で186件(14.6%減)の減少である。前年の数字が平成26年4月の消費税増税を控えた駆け込み工事を含んでいることを勘案すると、増税後はやや減少傾向にある。これらの届出・通知に対して、文化財保護課は詳細分布調査497件(前年600件, 17.2%減)、試掘調査117件(同134件, 12.7%減)、発掘調査18件(同20件, 9%減)、慎重工事465件(同531件, 12.4%減)の指導をおこなった。

こうした指導に基づき、平成26年に文化財保護課が実施した試掘調査件数は121件である。前年の141件に比べ14.2%減少している。届出内容は、郊外における宅地造成のほか、市街地では特に共同住宅の建設が目立つ。地区別では、洛北・烏羽地区が増加していることから、郊外における宅地造成や共同住宅などの建設が活発になっていることがわかる。一方、平安京左京地区は前年とほぼ同数で、市街地中心部における開発行為が停滞していることが取組める。

2 平成26年の試掘調査概要

文化財保護課及び埋文研では京都市域を12のエリアに区分している(図1)。平成26年の試掘調査の地域別件数は、平安宮地区12件、平安京左京地区16件、平安京右京地区25件、太秦地区8件、洛北地域10件、北白川地区8件、洛東地区11件、伏見・醍醐地区6件、南・桂地区6件、烏羽地区10件、長岡京地区9件、京北地区0件である。このうち21件(V章・試掘調査一覧表参照)については発掘調査を指示し、うち埋文研が7件(No.3・12・21・22・41・49・105)、株式会社イビソク(代表 森重幸)が1件(No.90)、古代文化調査会(代表 家崎孝治)が3件(No.42・43・73)、関西文化財調査会(代表 吉川義彦)が1件(No.102)、西近畿文化財調査研究所(代表 村尾政人)が1件(No.10)、京都市文化財保護課が1件(No.99)の計14件の調査を年内に実施した。

発掘調査をおこなったことで顕著な成果が挙げた事案としては、東京極大路の路面を検出した平安京左京二条四坊十五町跡(No.41)、平安時代末期から鎌倉時代にかけての邸宅の一角で、一部分にのみ地業をもつ構造の建物を検出した平安京左京九条二坊十六町跡・御土居跡(No.49)、尊勝寺の九体阿彌陀堂の南端を検出した尊勝寺跡・岡崎遺跡(No.90)、推定伊達政宗屋敷の礎石・瓦溜りと整地層を検出した伏見城跡(No.102)などが挙げられる。

工事の掘削深度が試掘調査で確認した遺構面より十分に浅いため、または設計や工法の変更により当面の保存が図られたなどの理由から、発掘調査に至らなかった例が12件あり、このうちの5件(No.11・13・32・35・40)を本書において報告する。一方、保存措置が講じられなかったものの、報告すべき成果のあった調査4件(No.6・34・79・84)について詳細を報告する。

(熊谷 舞子)

Ⅱ-1 平安宮中務省跡・聚楽遺跡 No.32

1 はじめに

本件調査は、上京区中務町地先における共同住宅新築工事に伴う試掘調査である。調査地は、古墳時代の集落跡である聚楽遺跡及び、平安宮中務省跡北端に相当する。中務省は天皇に近侍し、詔勅の起草や国史編纂の監修、叙位、位記、戸籍、名簿、租調の帳簿を管理する職掌とし、天皇の秘書官として重要視された。なお、陽明文庫本『宮城図』には、省内の区画割が示されており、南北に大きく分かれ、北半には西から内舎人、監物、鈴鑑が、南半には西に政庁、東に陰陽寮が配されている。

中務省跡は宮内でも調査事例が多く、四至、基壇、建物跡等が検出され、省内の区画割や建物配置が復元されている¹⁾ (図6)。北端域では、築地基底部、内外溝、整地層が確認されており、当調査地においても南半にて築地外溝が、北半では整地層が検出されることが予想された。

調査は平成26年7月22日に実施し、面積は9㎡である。調査の結果、中務省北築地外溝及び、路面状整地層を確認したため、施主側と協議を行い、基礎形状を変更し、十分な保護層を設けて地中保存されることとなった。

2 遺 構

調査区は、築地外溝想定付近に1Tr., その北側に2Tr.の2箇所を設定した。基本層序は、近現代盛土、近世包含層と続き、1Tr.では地表下-0.6mにて褐色シルトの地山、2Tr.では-0.5mにて平安時代整地層、-0.7mにて黄褐色細砂の



図3 調査位置図 (1:5,000)

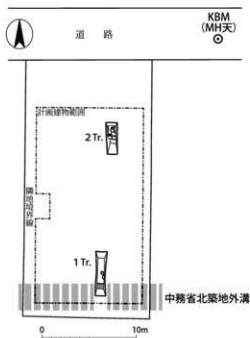


図4 調査区配置図 (1:400)

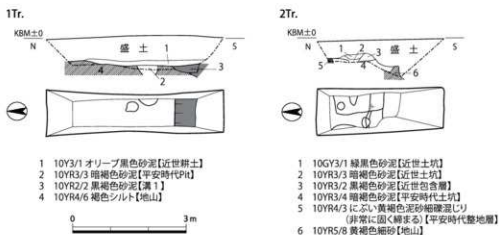


図5 調査区実測図(1:100)

地山となる。

検出した遺構は、1Tr.にて東西溝(溝1)、2Tr.にて整地層、不定形の土坑等がある。溝1は、幅0.6m以上、深さ0.4m以上で、更に調査区外に広がる。埋土は黒褐色砂泥である。周辺調査成果から北築地に伴う外溝と捉えられる。埋土からは平安時代初頭の土師器杯細片が出土している。

2Tr.の整地層はにぶい黄褐色泥砂に細礫が叩き締められた状態で含まれ、固く締まり路面状を呈す。整地層は掘乱断面にて少なくとも2層確認でき、中務省の北側から内裏建礼門前に広がる大庭の整地層と判断できる。整地層上面にて成立する土坑は、南北1.3m、東西0.5m以上で更に調査区外に広がる。平面検出に留めたため、遺物の出土は無く、年代は不明である。

3 まとめ

今回の調査成果として、想定通りに北築地外溝を確認することが出来た。既知の調査成果から、外溝は幅約2~2.5m、深さ1.0m前後で、平安時代初頭に成立し、中期には埋没することが明らかにされている。溝1からも平安時代初頭の土師器杯が出土しており、年代幅に齟齬は無い。

なお、調査地南側には『宮城図』の記載では鈴鎗が描かれ、北面に門が開かれている。内舎人と監物間には正庁からの通路が想定されており、北築地外溝は途切れている²⁾。今回の調査で外溝を確認したことは、調査区南側には門が存在しない可能性が指摘できよう。ただし、造酒司跡の調査³⁾では、推定南門前に外溝が存在し橋が架かっていた痕跡が認められることから断定は避けたい。周辺の調査を実施する際は十分注意したい。(西森 正晃)

註

- 1) 加納敏二「平安宮中務省跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成22年度』京都市文化市民局、2011年。
- 2) 「試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成12年度』京都市文化市民局、2001年。
- 3) 「造酒司跡」『平安宮Ⅰ』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第13冊、(財)京都市埋蔵文化財研究所、1995年。

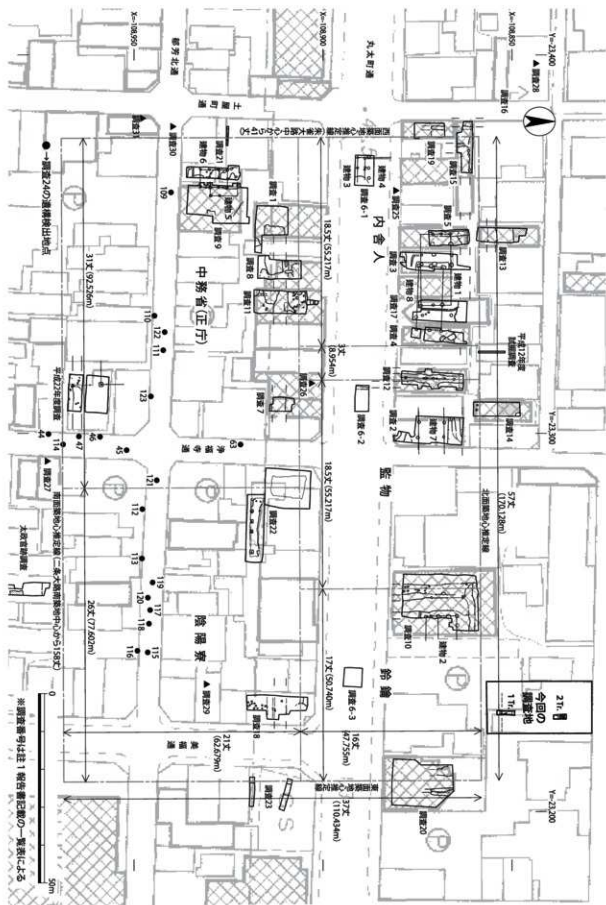


図6 中務省跡調査位置図(1:1,000) 註1報告書図21に加筆

II-2 平安宮修式堂跡・聚楽遺跡 No.34

1 はじめに

本件は中京区聚楽廻東町内における共同住宅の建設に伴う試掘調査である。当該地は古墳時代の集落跡である聚楽遺跡及び平安宮朝堂院修式堂に該当する。修式堂は朝堂院の西五堂で、民部省・式部省の官司が直座する場所であったとされ、これまでに調査地の北側道路で基壇外装の延石^①(図7調査1)を、南西で基壇版築土と延石の抜き取り溝を確認している(図7調査2)。これらの調査成果を受けて修式堂基壇の南北幅が19.23mであったと想定する^②。本調査地は修式堂の北縁中央部にあたり、修式堂基壇及び北側階段に関連する遺構の検出が予想された。また、立会調査(図11調査18)で古墳時代の遺物が出土していることから、聚楽遺跡関連の遺構の確認も留意した。調査は平成26年11月21日に実施し、調査面積は16㎡である。



図7 調査位置図(1:5,000)

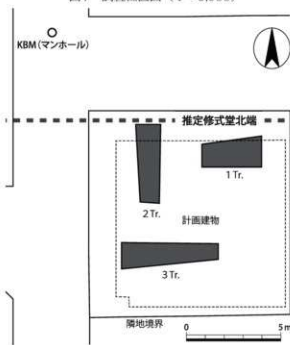


図8 調査区配置図(1:2,000)

2 層序と遺構

調査区は修式堂関連遺構の検出を目的に3箇所(1~3Tr.)設定した(図8・9)。1Tr.で現代盛土直下に地山(GL-0.65m)が堆積する。2Tr.では、GL-0.45mで灰黄褐色泥砂、-0.65mにてふい黄褐色砂礫の地山となる。北端の地山直上で凝灰岩片を含むふい黄褐色泥砂層(2Tr.2層)を確認した。敷地北側道路部分で修式堂の延石を検出していること

を勘案すると、修式堂に関連する堆積層の可能性が高い。しかし、調査区の北端のみの確認に留まっていることから性格などについては不明である。3Tr.ではGL-0.34mで近代盛土、-0.50mで暗灰黄色砂礫～泥砂、-0.86mにて明黄褐色シルト～砂礫の地山が堆積する。3Tr.では地山直上で

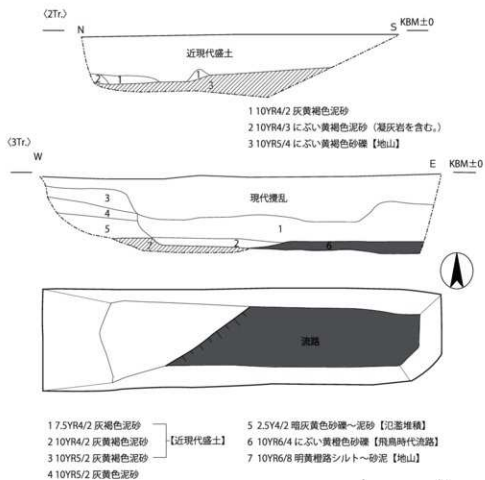


図9 遺構平面・断面図 (1:50)

北東から南西方向の流路を検出した。流路は西肩のみの確認ではあるが検出面で幅約3.1mを測る。

遺物が出土したのは3Tr.の流路のみである。出土遺物は須恵器杯身小片、甕、高杯小片で、このうち図化することが出来たのは甕のみである(図10)。甕は、頸部が細く外上方へ開き2条の沈線が巡る。体部は扁平で肩部はケズリ後ナデ、肩部から頸部にかけてナデを施す。下部はケズリを施し、轆轤回転方向は時計回りである。内面はナデで頸部にはしぼり目が僅かに残る。注孔から約90°の位置に孔を穿った後に粘土を詰め修復している痕跡が認められる。飛鳥時代に属する。

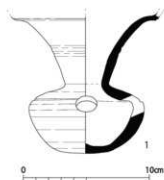


図10 遺物実測図 (1:3)

3 まとめ

今回の調査では、飛鳥時代の遺物を含む流路跡を確認することが出来た。これまでに平安宮内では弥生～飛鳥時代にかけての遺構・遺物を数十箇所を確認している(図11)。その範囲は、内裏・朝堂院を中心に、西は調査11(右近衛府)、東は調査6-7(大炊寮)と広範囲にわたる。なかでも、飛鳥～奈良時代の遺構は、内裏から朝堂院北東域及び西側に集中する。調査10では竪穴建物跡を

確認しており内裏や朝堂院北東域に微高地が形成されていたと考えられる。一方、豊楽殿や朝堂院の調査では平安時代以前の谷地形を確認(調査14・26・35・37)しており、豊楽殿付近から朝堂院の南側にかけて幾筋もの流路が成立していたことが分かる。本調査で検出した流路も上述した谷地形の一部に位置付けることができる。

以上の通り、平安京遷都以前の様相については、調査の蓄積が少ないことからほとんど明らかにされていない³⁾。しかし、宮の選定理由などを考察するうえで重要な視点となるもので、今後も更に緻密な調査が必要と考える。(鈴木 久史)

註

- 1) 伊藤玄三「平安宮朝堂院の遺構—延祿堂・修式堂—」『古代文化』第24巻第8号, 1972年。
- 2) (公財)京都市埋蔵文化財研究所「平安宮朝堂院跡・聚楽遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告書 平成24年度』京都市文化市民局, 2013年。
- 3) 1995年までの平安宮内における下層遺構の発掘調査成果は、文献3で詳細にまとめられている。

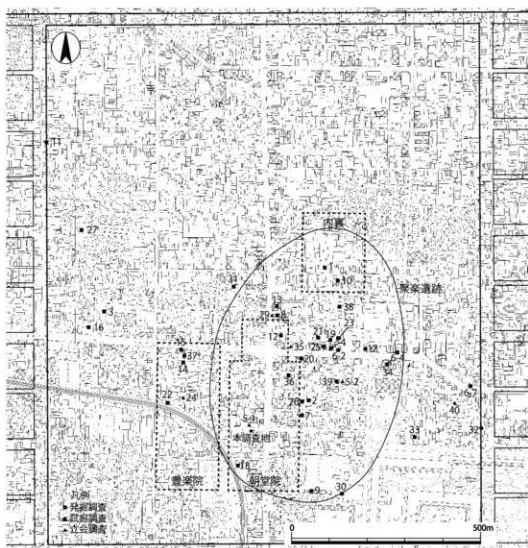


図11 奈良時代以前遺跡調査位置図 (1:10,000)

表1 奈良時代以前遺跡調査概要(1)

調査	地点	宮内建物	調査概要	方法	文献
1		内裏	GL-1 ~ 1.1 m において厚さ 0.15 ~ 0.2 m の飛鳥時代から奈良時代にかけての遺物包含層(黒灰色泥砂層)を検出。土師器杯、須恵器杯蓋を確認。	発掘	1
2		太政官	古墳時代の溝を検出。溝は幅約 3.7 m、深さ 0.9 m を測り、断面形は V 字状を呈す。埋土は上下 2 層に分層できる。下層から高杯・ミニチュア土器、須恵器杯身・有蓋高杯・高杯脚・器台・甕などが出土。上層から土師器甕、須恵器杯身・無蓋高杯・甕などが出土した。	発掘	2
3		造酒司	平安時代以前の溝を検出。SD7 は幅 1.5 m、深さ 0.3 m を測り、断面形は U 字を呈す。北東から南西方向に延長する。SD 8 は幅 1.2 ~ 1.6 m、深さ 0.3 m、断面形は U 字を呈す。北東から南西に延長する。SD 7 と重複する。SD 9 は幅約 0.8 m、深さ 0.2 m、断面形は V 字を呈す北東から南西に蛇行する。	発掘	3
4		中務省	古墳時代後期の土坑 3 基を検出。SK25 は東西 1.3 m 以上、南北 1.2 m 以上、深さ 0.06 m を測る。SK26 は東西 0.8 m、南北 1.6 m、深さ約 0.06 m を測る。SK29 は東西 1.7 m 以上、南北 2.9 m 以上、深さ 0.2 m を測る。SK29 から 6 世紀後半頃に属する土師器甕、須恵器杯身・高杯・甕などが出土。	発掘	3
5	1	朝堂院	朝堂院域で溝状遺構を検出。		
5	2	太政官 中務省	太政官と中務省間で平安時代の道路敷きの下層で幅 2.5 m の溝状遺構を検出。前者は須恵器杯身、後者から須恵器ハソウ出土。	立会	3
6	2	中務省	竪穴建物跡の一部を検出。床面までの深さ 0.1 m、床土として淡茶褐色砂泥を厚さ 0.1 m 前後入れる。		
6	4	中務省	幅 3 m、深さ 0.5 m の溝を検出。最下層から土師器・須恵器小片が出土。	発掘	3
6	7	大膳職 大炊寮	平安時代の溝の下層に弥生時代後期から古墳時代前期の遺物包含層(褐色砂泥層)を検出。		
7		朝堂院	古墳時代後期の溝を検出。溝は幅 3.0 m、深さ 0.5 m で断面形は偏平な U 字を呈す。土師器高杯・甕、須恵器杯身・甕などが出土。	発掘	4
8		大極殿	古墳時代後期の溝を検出。溝は南肩部以北を検出し、幅 2.8 m 以上、深さ 1.23 m 以上を測る。	発掘	5
9		民部省	弥生時代中期、古墳時代前期・後期の遺物包含層と古墳時代後期の土坑 1 基を検出。土坑は東西・南北ともに幅約 1.1 m、深さ 0.2 m を測る。	発掘	6
10		内裏内郭 回廊	奈良時代の竪穴住居、土坑 2 基、落込み 3 基を検出。竪穴住居は東西 3.6 m、南北 3.3 m の隅丸方形を呈し、深さ約 0.6 m を測る。主柱穴は 4 箇所、柱間は東西 1.85 m、南北 1.8 m である。北壁上端中央には煙道の痕跡があり、下方の壁面と床面が焼けて赤く変化していることから、カマドの存在が指摘されている。	発掘	7
11		右近衛府	奈良時代の溝を検出。溝は、幅 1.8 m、深さ 0.65 m を測り、南北方向の溝で東へ緩やかな弧を描く。土師器杯が出土。	発掘	7
12		朝堂院東 軒廊	飛鳥時代もしくは奈良時代の土坑 2 基を検出。SK35 は南北 1.0 m、東西 0.4 m 以上、深さ 0.2 m を測る。SK37 は南北 0.4 m、東西 0.3 m、深さ 0.1 ~ 0.15 m を測る。土師器細片出土。	発掘	7
13		中和院へ 大極殿院	飛鳥時代に埋没した溝を検出。幅 10 m 以上、深さ 2 m を測る。溝方向は北西から南東方向に延長し、調査 8 で検出した溝と一連である可能性が高い。	発掘	8
14		豊楽殿	豊楽殿基壇の下層で、弥生時代末期の竪穴住居跡を確認。北辺の一部を検出、深さ約 0.08 m で床面を検出。床面で甕・器台が出土。	発掘	3・9
15		清暑堂	古墳時代後期の土坑を検出。土師器・須恵器の小片が出土。	発掘	9
16		内匠寮	平安時代前期の南北方向の溝の底凹部から古墳時代後期から奈良時代の遺物が出土。	発掘	9
17		中務省	古墳時代後期の竪穴建物跡を検出。現存長は東西 1.3 m、南北 3.3 m を測り、平面形は方形を呈す。主柱穴は 1 箇所検出。	発掘	10

表2 奈良時代以前遺跡調査概要(2)

番号	宮内建物	調査概要	方法	文献
18	朝堂院	江戸時代の土取穴から古墳時代後期の土師器・須恵器が出土。	試掘	11
19	中務省	平安時代以前の深い窪みと掘立柱列を検出。窪みは深さ0.3mで下層から古墳時代末期の土器片、上層から平安時代前期の土器片が出土。南北2間分の柱穴列で、柱穴は一辺0.6mの方形を呈し、柱痕跡は径0.2mを測る。主軸方向は北に対して西へ振れる。	発掘	12
20	朝堂院	奈良時代に埋没した北東から南西方向の溝を検出。溝は平安時代の溝によって削平を受ける。検出で、幅0.6m深さ0.2～0.35mを測り、断面形はU字を呈す。土師器片、須恵器杯蓋・鉢・甕などが出土。	発掘	13
21	中務省	古墳時代後期の比較的大型の土坑5基(5～9)を検出。土坑5は東西0.9m以上、南北2.2m以上、深さ0.9m。土坑6は東西1.2m以上、南北2.4m以上、深さ0.4m。土坑7東西2m以上、南北1.2m以上、深さ0.2m。土坑8は、東西1.5m以上、南北1.2m以上、深さ0.2m。土坑9は、東西3.0m以上、南北1.6m以上、深さ0.1～0.2m以上。いずれも後世の遺構によって削平を受けている。古墳時代後期の土師器、須恵器片が出土。	発掘	14
22	豊楽殿	近代の遺構理士から弥生土器、古墳時代前期の土師器などが出土。	発掘	15
23	中務省	古墳時代末期から飛鳥時代の溝4条、柱穴7基を検出。SD01は幅0.4m、深さ0.3mの東西溝。SD02は幅0.4mの東西溝。SD03は西肩が削平されているが検出で幅0.4mの南北溝。SD04は、幅0.7m深さ0.4mの東西溝。SD05は、幅0.4～0.7mの不定方向の溝。柱穴は不整形な円形で、径0.3～0.6mあり、いずれも柱痕跡は径0.1mを測る。	発掘	14
24	豊楽殿	GL-0.28m以下で古墳時代の遺物包含層を検出。	立会	16
25	中務省	古墳時代後期の塼穴住居のカマド、掘立柱列、溝、土坑群を検出。カマド(SK20)は、長径0.8m、短径0.55mの楕円形を呈し、底面中央南東寄りに柱穴と考えられる石が据えられており、覆土には焼土や炭・灰を含む。掘立柱列は北に対して西へ振れ、柱間は2.5m、柱穴は一辺0.5～0.7mの方形を呈し、柱痕跡は径0.1mを測る。SD24は東肩口のみを検出。幅は1.3m以上、深さ0.45mを測り、北に対して西へ振れる。須恵器杯身・甕が出土。	発掘	17
26	朝堂院東面回路	古墳時代後期の溝状の落ち込み。溝の北肩口のみを検出で、東西幅2.5m以上、深さ0.5mを測る。調査2と同一の溝か?	発掘	18
27	武徳殿・右近衛府	飛鳥時代の土坑、掘立柱建物2棟、掘立柱列を検出。土坑2東西2.5m、南北3.0m、深さ0.5mで平面形は楕円形を呈す。土師器・須恵器・焼土や炭、粘土塊が出土。建物15は北に対して西に振れ、南北2間、東西1間分を検出。柱間1.7mで柱穴は0.3～0.4mの楕円形、柱痕跡は径0.2mの円形を呈す。建物16は北に対して西へ振れ、南北1間、東西1間分を検出。柱間は南北が2.1m、東西1.5mを測り、柱穴は0.5mの方形である。柱痕跡は径0.2mの円形を呈す。櫓24は東西2間分で柱間1.7～1.8m、柱穴は一辺0.4mの方形の掘方で、柱痕跡は径0.15mを測る。	発掘	18
28	内藏寮・内膳司・中和院	GL-0.2～1.0mにおいて厚さ0.2～0.3mの平安時代以前の包含層を検出。	立会	3
29	大極殿院北面回廊	大極殿北面回廊の基壇北縁下層で調査8で検出した溝と同一の溝を検出。	試掘・立会	3
30	民部省	古墳時代の須恵器甕・甕が出土。	発掘	19
31	中和院・真言院	平安時代以前の土器が出土。	発掘	20
32	宮城東限・大炊寮	GL-0.66mで弥生時代の南北溝を検出。	試掘	21
33	宮内省	弥生時代遺物包含層を検出。平安時代後期に属する土坑から古墳時代の須恵器杯の底部が出土。	発掘	22

表3 奈良時代以前遺跡調査概要(3)

調査	宮内建物	調査概要	方法	文献
34	西院跡	古墳時代の土坑を検出。土坑 124 は平面形は不明で、深さ 0.5 m 以上を測る。土師器裏が出土。	発掘	23
35	朝堂院	平安時代以前の自然流路。(報告書では平安時代整地層の下層で検出しているが時期不明と慎重な判断をしている。ここでは、平安時代以前の可能性が高いと判断し、一覧表に加えた。)	立会	24
36	朝堂院	古墳時代の土坑 2 基を検出。土坑 45 は南北 1.3m 以上、東西 0.5 m 以上を測り、平面形は方形を呈す。土坑 64 は、南北 1.1 m 以上、東西 0.4 m 以上を測り、平面形は楕円形を呈す。土坑 45 から布留式期の高杯が出土。	発掘	25
37	豊樂殿	平安京造営以前の旧地形の谷を検出。西から東に開析する。	発掘	25
38	内裏	古墳時代後期の溝を検出。幅 1.5 ~ 1.8 m、深さ 0.6 ~ 0.75 m を測り、断面形は J 字形を呈す。東に向かって北へ約 20° 振れる東西溝。	発掘	26
39	中務省	平安時代後期の整地層から縄文時代の石棒と見られる石製品や古墳時代の須恵器杯蓋が出土。	発掘	27
40	大炊寮	弥生時代後期の壁穴住居を確認。壁溝は幅 0.1 ~ 0.2 m を測る。直径 0.3 m の柱穴を 2 箇所で確認。	立会	28

文献

- (財)京都市埋蔵文化財研究所『平安京跡発掘調査概報 京都市埋蔵文化財研究所概集 1978-II』, 1978年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『平安京跡発掘調査概報 京都市埋蔵文化財研究所概集 1978』, 1978年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市埋蔵文化財研究所調査報告第13冊「平安宮1」』, 1995年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『昭和56年度京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』, 1983年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『平安京発掘調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局, 1985年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』, 1985年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『平安京発掘調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局, 1986年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『平安京跡発掘調査概報 昭和62年度』京都市文化観光局, 1988年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『平安京跡発掘調査概報 昭和63年度』京都市文化観光局, 1989年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』, 1994年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』, 1995年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『平安京発掘調査概報 平成2年度』京都市文化観光局, 1991年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度』京都市文化観光局, 1991年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『平安京跡発掘調査概報 平成3年度』京都市文化観光局, 1992年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』, 1995年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡立会調査概報 平成3年度』京都市文化観光局, 1992年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『平安京跡発掘調査概報 平成4年度』京都市文化観光局, 1993年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡発掘調査概報 平成6年度』京都市文化観光局, 1995年。
- 戸田秀典ほか『平安博物館研究紀要第6輯(財)古代学協会, 1976年。
- 京都市文化観光局文化財保護課『京都市埋蔵文化財年次報告 1975』, 1976年。
- 京都市埋蔵文化財調査センター『京都市内遺跡試掘調査概報 平成4年度』京都市文化観光局, 1992年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡発掘調査概報 平成13年度』京都市文化市民局, 2002年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡発掘調査概報 平成14年度』京都市文化市民局, 2003年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』京都市文化観光局, 2007年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡発掘調査報告 平成19年度』京都市文化観光局, 2008年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡発掘調査報告 平成21年度』京都市文化市民局, 2010年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡発掘調査報告 平成22年度』京都市文化観光局, 2011年。
- (財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度』京都市文化市民局, 2013年。

II - 3 平安宮治部省跡 No.35

1 はじめに



図12 調査位置図(1:5,000)

調査地は中京区西ノ京坂町・聚楽廻西町内であり、七本松通と太子道の交差点の北西に位置し、平安宮跡西南に当たる。敷地西端が治部省跡に該当し、それ以外の調査区大半は宮内道路上である。

当地において、共同住宅建設が計画されたため、平成26年11月4日に試掘調査を実施した。調査面積は30㎡である。

周辺では朱雀第六小学校内での発掘調査で、瓦敷遺構を検出している¹⁾(図12-調査1)。また、今回調査地の約100m北方では平成20年に試掘調査を実施しており、平安宮御井の東区画に関わる溝を検出している²⁾(図12-調査2)。今回の調査地は治部省の東端に当たることから、平成20年の試掘調査と同様に宮内の区画に関わる遺構の検出が予想された。

2 層序と遺構

調査区は治部省の北及び東築地、並びに宮内道路検出を目的に、南北方向・東西方向に各1箇所ずつ設定し、南北のものを1Tr.、東西のものを2Tr.とした。基本層序はGL-0.4～0.5mまで現代盛土、GL-0.6～1.0mまで近世耕土、以下遺構面まで灰色泥砂層であり、GL-1.0～1.1mで平安時代の遺構面に達する。2Tr.ではGL-1.1mで地山と考えられる黄色シルトを検出した。1Tr.で検出した近世の井戸の他は平安時代の遺構が良好に残存した。検出した遺構は路面、溝、築地基底部である。

路面1 両調査区の東側では多量の小礫のほか、瓦片を含む非常に固く締まった層を検出し、当初推定した通り、当該地点が路面であることが確認できた。

溝2 1Tr.西側では南北方向の溝を検出した。位置からは宮内道路西側溝であると推定できる。1Tr.内では東肩のみの検出にとどまり、東西方向に設定した2Tr.ではこの溝の西肩も検出できた。これにより、溝の幅が3mとなることが明らかとなった。

築地3 溝の西側に当たる2Tr.の西端では、版築による薄い層が幾重に重なる状況を確認した

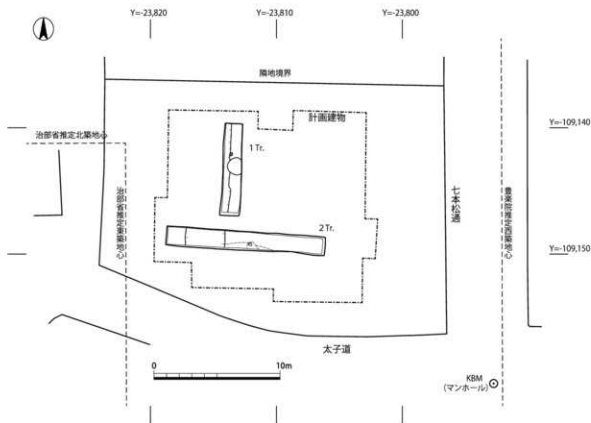


図13 調査区配置図 (1:300)

(2 Tr. 6～9層)。この重なりは治部省の東端築地の基底部に比定でき、南北方向の溝は宮内道路の西側溝であることが確実に。築地基礎を一部断ち割ったところ、下面で砂礫の混じる黒色粘土～泥砂を埋土とする落込みを検出した(2 Tr.10層)。断面を確認したにとどまり、性格を確定させることができないが、築地構築に伴う地葉や築地構築以前の溝などの可能性が考えられる。

3 遺物

路面から瓦片などの遺物が出土し、平安前期に帰属する可能性のある瓦もある。このほか、猿投産緑釉陶器や土師器皿が出土しているが、細片のため図化できない。また凝灰岩片も出土している。

4 まとめ

今回検出した溝の西端は座標値でY=23,817.2であり、東端はY=23,814.1から23,813.6である。昭和52年の平安宮造酒司跡第3次調査では造酒司の東築地外溝が検出されている³⁾。この際の西端はY=23,819.5であり、座標値で2 m程度のズレがある。先述した平成20年の試掘調査で検出した南北溝の座標値は計測していないため不明だが、今回調査地点の西側道路の延長から約10m東で検出しており、今回検出した溝のほぼ延長上といえよう。また、路面を構成する土から平安時代前期に遡る可能性のある瓦が出土することから、今回検出した遺構は遷都後ある程度の時間を経て整備されたものと考えられる。

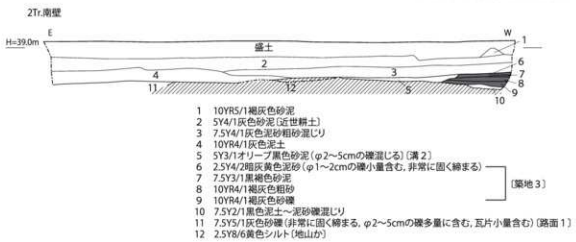
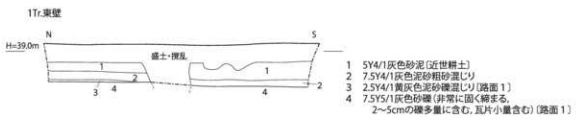
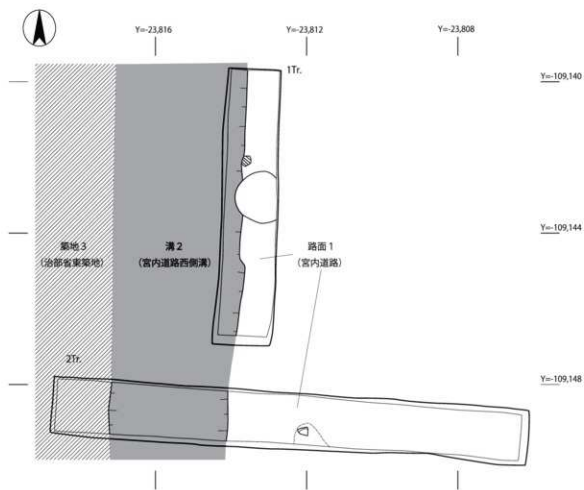


図14 遺構平面・断面図 (1:100)



図15 調査区全景（南から）

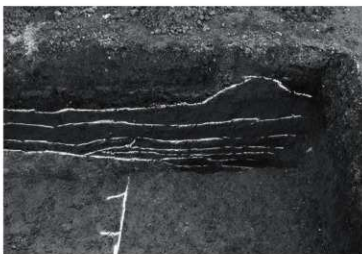


図16 2Tr.南壁築地部分断面
（北から）

治部省東築地及び側溝を検出したことは大きな成果であり、今後、更にデータを重ねていく必要がある。

なお、計画建物の基礎深度は遺構面に及んでおらず、遺構は地中保存されている。

（新田 和央）

註

- 1) 上村和直「平安宮御井跡」『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人 京都市埋蔵文化財研究所, 2012年。
- 2) 家原圭太「平安宮御井跡」『京都市内遺跡試掘調査報告』平成20年度, 京都市文化市民局, 2009年。
- 3) 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所「付章 I-2 造酒司跡」『平安宮1』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第13集, 1995年。詳細は南孝雄『平安宮造酒司跡・鳳瑞遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-2, 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所, 2012年。

Ⅲ 平安京左京二条三坊十一町 No.40



図17 調査位置図(1:5,000)

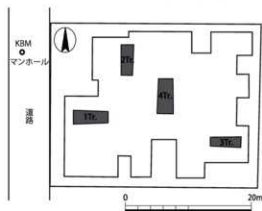


図18 調査区配置図(1:600)

で確認した地山の高さはGL-2.3mで、土質は浅黄色砂礫であった。

3 遺構・遺物

4Tr.では浅黄色砂泥の上面で、土坑3基・ピット1基・溝1条を検出した。

トレンチ西側で検出した溝埋土からは、瓦器羽釜1などが出土した。羽釜1は、底部から体部への立ち上がりが明瞭で体部は直線的、内面は密なハケメ、外面はナデとオサエ痕が残る。焼成は瓦器としてはやや甘く土師質に近い。細片のため図化しなかったが、共伴遺物には土師器皿、瓦器羽

1 はじめに

本件は、中京区室町通夷川上る鏡屋町39-1・42で計画された共同住宅建設にともなう試掘調査である。調査地は、平安京では左京二条三坊十一町跡にあたり、同町内には平安時代後期の関白藤原忠通の晩年の邸宅である「勘解由小路殿」があったと伝わる¹⁾。周辺の調査では中世の整地層など複数の遺構面が確認された成果もあるが、幕末の蛤門の変に伴う火災処理土坑によって大規模な攪乱をうけている事例が多い。

調査は平成26年9月3・4日におこない調査面積は43㎡であった。

2 層序

基本層序はG L -0.8～-1.3mまで現代盛土および近世攪乱、以下近世包含層が残り、GL-1.2～-1.3m以下に室町時代の包含層が複数確認された。

下層まで確認した4 Tr.での層序はGL-1.25mまで現代盛土、-1.6mまで暗灰黄色泥砂からなる室町時代包含層、-1.9mまでオリーブ黒色泥砂からなる室町時代包含層、以下礫混じりの浅黄色砂泥でこの地層は平安時代整地層(所謂「鶯色整地層」)の可能性がある。なお別の壁面

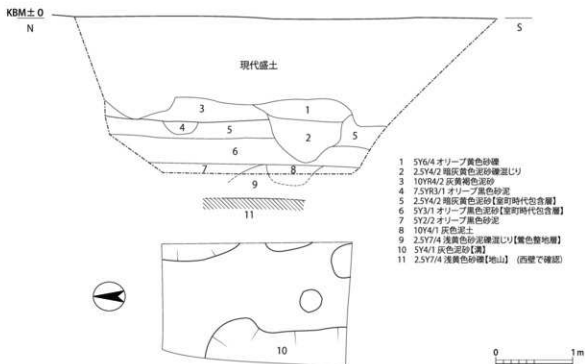


図19 4Tr. 平面・断面図 (1:50)

釜、奈良火鉢、国産施軸陶器皿がある。遺物の年代観は京都IX期古段階に位置付けられる。また層5から土師器皿2・3が出土した。土師器皿2・3はほぼ完形で重なった状態で出土した。底部内面には凹状圏線がめぐる。XI期古段階のものである。

4 まとめ

本調査地のように室町通りに面する立地といった中世の活発な土地利用が推定される場所においても、周辺の事例では幕末の火災処理土坑や近世以降の擾乱で遺構面が壊されており、情報を得られない場合が少なくない。今回、中世以前の包含層が複数確認できたことは貴重な事例である。

室町時代の整地層は少なくとも2層におよび、壁面でも土坑などの遺構を複数基確認した。整地層中には細片ではあるが多量に遺物を含み、活発な土地利用が推定される。また、その下にはさらに平安時代の整地層と考えられるいわゆる鶯色の整地層も検出しており、今後周辺での事例増加が期待される。なお、本件は試掘調査後の協議の結果、遺構を地中に残している。（赤松 佳奈）

註

1) 『兵範記』仁平二年三月十六日条

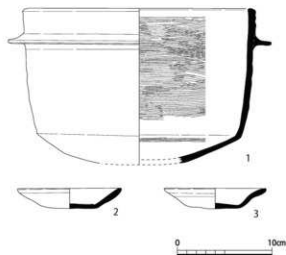


図20 出土遺物実測図 (1:4)

IV 平安京右京六条一坊十五町跡 No.6

1 はじめに

本件は、下京区中堂寺庄ノ内町地内における高齢者向け共同住宅建設工事に伴う試掘調査である。調査地は平安京右京六条一坊十五町跡に該当するが、同町についての文献資料の記載は無い。周辺の調査では、調査地南西側の試掘調査で砂礫層の中に含まれる粘土層から平安時代の土器類がまとめて出土したものの、明確な遺構に伴うものではない(図21-調査1)¹⁾。

したがって、今回の調査では同町内の遺構分布状況を探ることを目的とした。

調査は平成26年3月18日に実施、面積は47㎡である。調査の結果、砂礫層内の落ち込みから平安時代の木製品が出土したため、報告する。なお、本件については工事着工時の詳細分布調査を実施し、落ち込みの続きを確認したため、合わせて報告する。



図21 調査位置図(1:5,000)



図22 調査区配置図(1:500)

2 遺構

敷地中央に現代の井戸が残されており、調査区は井戸を避けて東端に寄らざるを得なかった。基本層序は、GL-0.5mまで盛土で、以下、摩滅した遺物を含む砂礫が堆積し、-1.0m以下の砂礫層には遺物を含んでいない。砂礫層はいずれも北東から南西に向けて流れていた流路と捉えられる。

遺構は、砂礫層内に含まれる黄灰色泥土からなる落ち込みである(11層)。落ち込みは幅1.1m以上、深さ0.4mを測る。詳細分布調査にて確認した延長部分を合わせると長さは

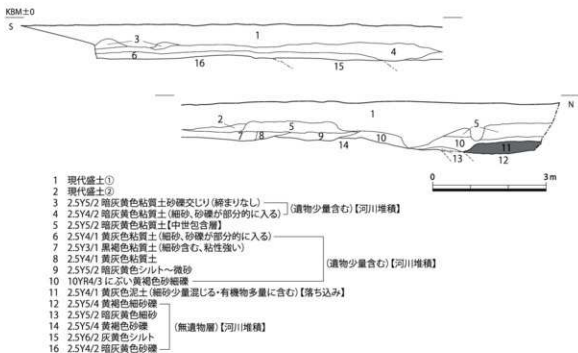


図23 試掘調査区実測図(1:100)

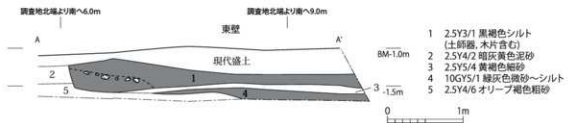


図24 A-A'間断面図(1:50)

約6m以上となる。埋土からは、平安時代前期から中期の土器・瓦と共に多量の木製品が出土した。

3 遺物

落ち込みからは少量の土器、須恵器とともに、木製品がまとめて出土した(図25・26)。木製品の種類は、箸が最も多く、櫛、人形代、加工材等であるが、図化し得たものは少ない。

1は須恵器甕で、外面は平行叩き、内面の当て具痕は青海波文である。口径は13.2cmである。2は平瓦で、凹面に「坊□(常力)」の押捺がある。外面縄叩き、内面布目痕が残る。池田瓦窯産。平安時代中期。3は、難波宮からの搬入瓦で直郭文軒平瓦である。4は人形である。墨書で目、鼻、口、顎を表現している。5は櫛である。歯の根本には、歯を挽き出す目安とする挽き出し線が認められる。歯の数は3cmで26本を数える。3は掘削中の出土で、それ以外は全て落ち込みから出土である。

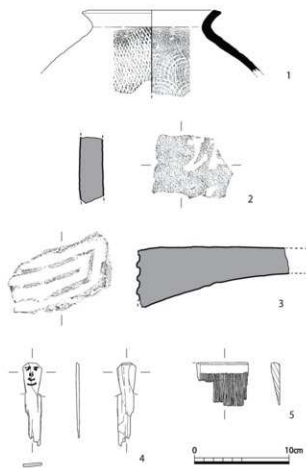


図25 遺物実測図(1:4)

註

- 1) 「試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成7年度』京都市文化観光局, 1996年。



図26 木製品

4 まとめ

今回の調査では、平安時代の木製品を含む落ち込みを確認した。堆積状況から、当地には平安時代中期の段階においても大規模な流路が存在し、居住に適した場所では無かったことを示している。今回確認した木製品は、流れが緩んだ際に堆積した泥土に投棄されたものと捉えられよう。

(西森 正晃)

V-1 松本古墳群 No.79

1 はじめに

本件は、史跡天塚古墳の陪塚である松本古墳2号墳の南隣接地で計画された個人住宅建築にともなう試掘調査である。調査は平成26年8月12日におこなった。調査面積は16㎡である。

史跡天塚古墳は京都市右京区太秦松本町に位置する前方後円墳で、全長は約71mで2段築成、前方部が南東を向く。後円部西側と西くびれ部には横穴式石室が1基ずつ確認されており、明治20年に石室から銅鏡、刀剣、挂甲、鉄鎌、馬具、玉類、須恵器などの副葬品が出土した。築造時期は、出土品や採集された埴輪から6世紀前葉と推定されている。また、現状では確認できないものの地籍図からは周濠を備えていたことがわかり、周濠に近接した北西部に、松本古墳群がある。なお、付近には蛇塚古墳、仲野親王墓古墳、現在は消滅した清水山古墳などがあり、天塚古墳周辺が嵯峨野古墳群の中心と位置付けられている。

松本古墳群の内、南西の1基(2号墳)は、現在も調査地北側に隣接するの個人住宅内に、高まりとして残っており、調査はこの円墳の周溝を確認することを主な目的としておこなった。

2 基本層序

層序はGL-0.2～0.4mまで現代盛土、地層の残りが良いところではGL-0.2mで黒褐色粘質土の土壌化層を確認した。全体としてGL-0.4m以下は灰黄色シルト及び砂礫からなる地山であった。この地山の直上で、黒褐色粘質土で埋まった土坑及び溝を検出した(図29)。

3 遺構

溝は調査地の東端で確認され、3m以上の幅を持つ。調査地が狭く残土置き場が確保できなかったため、西の肩は確認できなかったが、かなり幅の広い溝であることが推定される。検出した深さ



図27 調査位置図(1:5,000)

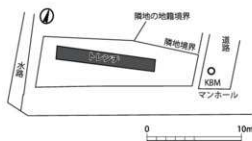


図28 調査区配置図(1:400)

は0.4mである。なお、溝の中央部は中世の遺物を含む黒褐色粘質土で切られていた。方向は北東から南西に伸びており、位置関係からは松本古墳の周溝とは考え難い。ただ、北隣接地の土地区画と今回検出の溝は、おおむね方向が一致しておりその延長線が天塚古墳の周溝と平行している点から、古墳となんらかの関係があるものと思われる。

4 まとめ

本調査地周辺では、天塚古墳および清水山古墳の遺跡範囲内で複数にわたり立会調査が行われている。昭和59年度の立会調査ではGL-0.4mで周濠埋土を検出しており、埴輪が出土している。また平成23年度の詳細分布調査でもGL-0.4mでやはり周濠埋土を検出している。こうしたことから、天塚古墳および清水山古墳に周濠が存在したことは確実である。

今回検出した溝は、天塚古墳の周溝とするには距離があるが、位置や方向からはまったくの無関係とは思われない。「京都府史蹟勝地調査報告」によると太秦村ノ地籍図には¹⁾、塚と約十二間を隔てて周濠の原型をしめす畔道がめぐっていたという。

また、北西側に周濠に平行する細い水田区画が描かれており、それが古墳築造当初のものでない

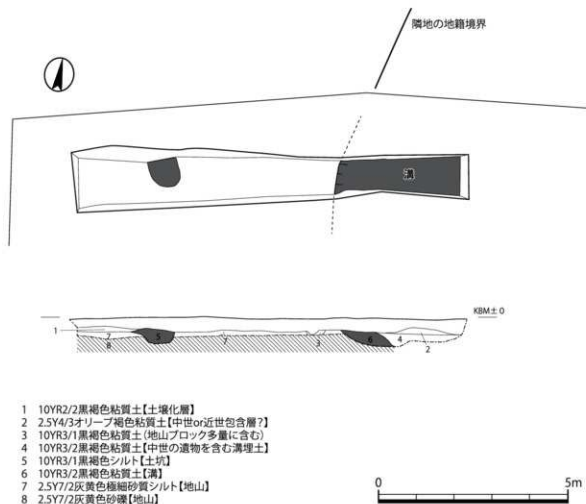


図29 遺構平面・断面図 (1:100)

にしる周濠の影響があったことは明らかである。

今後、調査が行われれば、古墳周濠とその後の土地利用の様子が明らかになるかもしれない。

(赤松 佳奈)

註

- 1) 梅原未治「太秦村天塚及び清水山古墳」『京都府史蹟勝地調査會報告』第三冊、1922年。



図30 調査地全景（西から） 奥に見えるのが天塚古墳

V-2 史跡賀茂別雷神社境内 No.84

1 はじめに (図31)



図31 調査位置図 (1 : 5,000)

調査地は賀茂別雷神社(上賀茂神社)の境内摂社、山口社である。近世以前は澤田社と呼ばれていたが、明治になって『延喜式』神名帳にいう「賀茂山口神社」に比定されるに至り、今の名に改称されたものである。この比定に関しては異論もあるが¹⁾、本稿では現行の公式名称に従い山口社と呼称する。

当該摂社は賀茂別雷神社本殿の南東、片岡山の南麓にあり、一間社流造檜皮葺の本殿と、桁行二間梁行一間入母屋造檜皮葺の拝殿から成る。社が鎮座する地点には、境内を流れる「ならの小川」から分かれた細い水路が山裾に沿って東流しており、山口社はこの水路を挟んで北に本殿、南に拝殿という特徴的な配置を有する。

現在の建物は本殿・拝殿ともに寛永年間のもものと推定されているが²⁾、室町時代と考えられる

「賀茂別雷神社境内絵図」にも同位置同配置で描かれており、中世以前の景観を良く伝えているものと思われる。

しかしながら近年建物の老朽化が進行し、特に拝殿屋根の傷みが顕著であることから、この度その葺き替えを主体とした修理を実施することとなった。これに伴い、不等沈下が著しい礎石の調整と補強も必要とされ、掘削が発生することになったため、史跡の現状変更許可条件として、事前の試掘調査を本市において実施する運びとなった。調査は平成26年9月25日に行い、調査面積は0.5㎡であった。

2 遺構 (図32)

拝殿は低い亀腹基壇の上に建てられており、漆喰で仕上げられたこの亀腹のすぐ北側を幅約30cmの水路が流れている。大雨が降るとこの水路があふれて柱の根元を洗い、建物本部の腐朽を早めている状況があったため、修理においては、この機会に6つの礎石全てを15cmほど嵩上げする計画であった。そこで今回の調査では、礎石を据え直す前に現状と下部構造について記録するこ

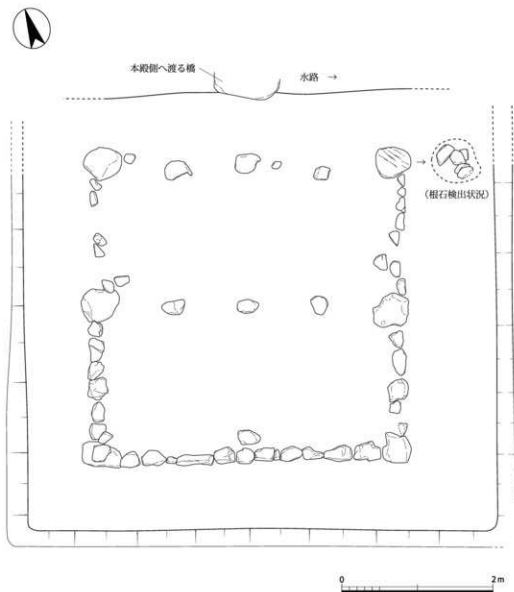


図 32 山口社基壇及び礎石等平面図 (1:50)

とを主な目的とした。調査は建物を揚げ前した状態で実施し、礎石と差し石の現状平面図を作成した後、6つの礎石のうち沈下の目立つ北東隅・北西隅・南西隅の3つをサンプルとして取り外し、下部構造を観察記録した(巻頭図版1・2)。なお、現状平面図作成にあたっては、ジャッキの基礎や素屋根足場によって基壇隅部など一部実測ができなかった。

礎石・差し石は砂岩を主体とした自然石で、一辺約3.9mの方形に並べられている。差し石は建物の正面側となる南半は密であるが、北半は疎らである。礎石はいずれも差し渡し40cm前後、厚さ30cmほどで、建物規模に比して大きなものを用いている。最も沈下の大きい南西隅の礎石では、その応急措置として礎石と柱の間に別の1石が咬ませてあった。また、東石は桁行の中央柱筋の3箇所にしがなく、根太や床板への負担が大きかったことが傷みの一因であったかと思われる。

調査において取り外した3つの礎石のうち、小川に近い北東隅と北西隅の礎石は、予想に違わず

その下の亀腹構築土が水を含んで脆弱であり、砂礫が混じらず、礎石下に拳大の川原石を入れて根石としていた。これに対し南西隅の礎石の下はよく締まった砂礫混じり泥砂で、根石を咬ませず、直接土の上に据えられていた。この据え方の相違は、あらかじめ小川に近い方を堅固に拵えたか、過去の修理で北側礎石が据え直されたか、いずれかによると思われる。堅固であるはずの南西隅の沈下が最も大きく、脆弱な北側2石が比較的小さいことからすると、おそらくは後者であろうと推測するが、後述のとおり現状を保存するため追及できなかった。なお、礎石据え付け時の掘方については、亀腹の仕上げ漆喰を壊すことになるので、今回はあえて検出を試みなかった。

3 まとめ

今回の試掘では、現場調査を進めつつ修理の具体的方法について協議した結果、根石などはそのままに、その上に碎石等を充填して礎石の嵩上げを行うこととなった。これを受けて調査は現状保存を優先し、下部構造の確認は、礎石を取り上げた後の穴の中でのみ行うこととした。したがって、礎石の掘方や、据え直しの有無等については追究し得なかった。また、現社殿は中世以前の位置を踏襲している可能性があるが、そういった前身遺構の確認も将来の課題となった。

(堀 大輔)

註

- 1) 式内社研究会編『式内社調査報告』第1巻、1979年、皇學館大学出版部。
- 2) 京都府教育委員会『京都府の近世社寺建築』1983年においては19世紀半ばとされているが(P21)、府文化財保護課小宮睦氏の御教示によれば、当社の建築も中世末から賀茂別雷神社が本格的に再興された寛永期のものである可能性が高いという。

V-3 法勝寺跡・岡崎遺跡 No.11

1 はじめに

本件は、左京区岡崎南御所町地先で計画された個人住宅新築工事に伴う調査である。調査地は、岡崎遺跡及び法勝寺跡に該当している。法勝寺は白河天皇の御願寺として、承保二年(1075)に造営が始まり、承暦元年(1077)に金堂・講堂・阿弥陀堂・法華堂など、永保三年(1083)には八角九重塔・薬師堂などが供養され主要伽藍が整っている。周辺では調査地南側で金堂跡の発掘調査を実施しており、礎石据え付け穴、基壇地業、西縁延石、雨落溝が確認されている¹⁾。金堂の北側には講堂が配され、調査地はその推定地の西側にあたる。講堂は、『兵範記』に、鳥羽法皇の五十算を祝う場として用いられた際の指図が残されている²⁾。指図から、講堂は七間四面で南面に孫庇を持つ建物であったことがわかる。したがって今回は、講堂に関連する遺構及び、岡崎遺跡の様相を把握することを目的に調査を行った。



図33 調査位置図 (1:5,000)

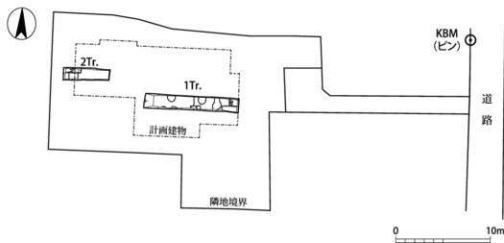


図34 調査区配置図 (1:400)

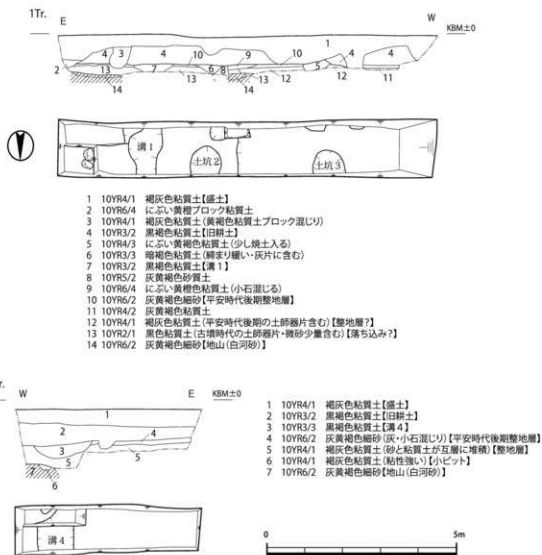


図35 調査区実測図(1:100)



図36 1Tr. 全景(東から)



図37 2Tr. 溝4(南東から)

調査は平成26年3月5日に実施、面積は23㎡である。調査の結果、法勝寺期の遺構が良好に遺存していることを確認したため、施主側と協議を行い、基礎形状の変更と十分な保護層を設けることとなり、地中保存されることとなった。

2 遺 構

講堂西縁を想定し、調査区は東西方向に設定した(1・2Tr.) (図34)。

1Tr.の層序は、現代盛土、旧耕土と続き、GL-0.8mにて平安時代後期の整地層である厚さ約0.05mの灰黄褐色細砂、続いて東半では古墳時代の遺物を含む黒色粘質土、西半では平安時代後期の遺物を含む褐灰色粘質土となり、-1.0mにて地山である灰黄褐色細砂(白河砂)に至る。

2Tr.の層序は、平安時代後期の整地層までは1Tr.と共通しており、整地層以下、-0.9mにて砂と粘質土とが互層に堆積する整地層と続き、-1.45mにて白河砂の地山となる。

遺構は、主に平安時代後期の整地層上面で検出を行い、1Tr.で平安時代後期の南北溝を1条、土坑2基を、2Tr.で南北溝1条を確認した。2Tr.では一部断割を行い、白河砂上面で時期不明のピットを確認した。

溝1 1Tr.東側で検出した南北溝で幅0.5～0.9m、深さ0.2m以上ある。平面形は中央が膨らみ、歪な形を呈す。埋土は黒褐色粘質土で、平安時代後期の瓦を多量に含むことから、瓦廃棄土坑と考えられる。

土坑2・3 1Tr.中央で検出した土坑で、2が径0.8×0.75m以上、3が0.9×0.65m以上の円形を呈す。埋土は両者とも黒褐色粘質土で、2からは平安時代後期の瓦が多量に出土している。

溝4 2Tr.西端で検出した南北溝で、幅1.5m、深さ0.35mを測る。埋土は黒褐色粘質土で、遺物は出土しなかったため時期は不明である。

3 遺 物

調査では検出に留めたため、出土遺物は少ない。大半が1Tr.溝1から出土したもので、土器類(図38)、瓦類(図39・表4)等がある。また、2Tr.2層から礎石が出土している(図40・41)。

1は、弥生時代土器の高杯脚部である。外面にミガキを施す。弥生時代後期後葉に属す。2は平安時代後期の須恵器鉢口縁部である。3は焼締陶器の底部である。底径15.6cm。

4・5は、複弁八葉蓮華文軒丸瓦である。6は巴文軒丸瓦である。7・8は、唐草文軒平瓦である。なお、瓦の詳細については観察表(表4)を参照のこと。

9は、2Tr.2層から出土した礎石である。最大径48.0cm、高さ18.0cm。花崗岩製で側面に複弁八葉蓮華文を刻む。上面には円形に溝を彫り、台座を造り出している。柱座は中央が僅かに凹む。柱当たりの直径は25.5cmである。耕土からの出土のため、時期は不明であるが、法勝寺期のものと考えるのが妥当であろう。

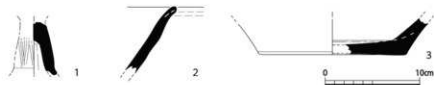


図38 出土土器実測図(1:4)

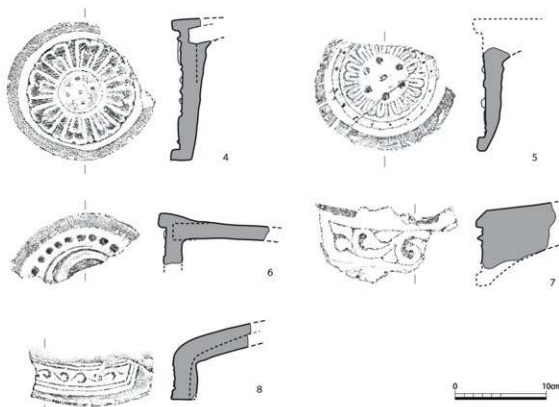


図39 出土瓦拓影・実測図(1:4)

表4 出土瓦観察表

番号	種類	文様の特徴	技法の特徴	産地	年代	備考
4	軒丸瓦	複弁八葉蓮華文。中明は平坦で團線が溢り、蓮子は1・4で間に「+」を配す。花卉は複弁で子葉は接する。圓弁は棒状で界線と接する。	瓦当成形は瓦当接合。上部に溝を付け丸瓦を挿入し、補足粘土を加える。瓦当裏面は不定方向のナデ、外縁ナデ。胎土は僅かに砂を含み、焼成は硬質で、色調は灰色を呈す。	播磨産	平安時代 後期	
5		複弁八葉蓮華文。中明は平坦で、蓮子は1・4配す。花卉は複弁で間弁は「 」状を呈す。外区には珠文が溢る。	瓦当成形は瓦当接合。瓦裏面は不定方向のナデ後、一部押さえ。外縁はナデ。胎土は少量の砂を含み、焼成は硬質で、色調は灰色を呈す。	山城産	平安時代 後期	中明に范 指が認め られる。
6		左巻き巴文。破片のため全体文様構成は不明。尾が長く、界線は配さず、珠文が密に溢る。	瓦当成形は瓦当接合。瓦当凸面から丸瓦凸面にかけて縦ナデ、丸瓦凹面は布目を残す。胎土は多量の砂粒を含み、焼成はやや軟質で色調は褐色を呈す。		平安時代 後期	
7	軒平瓦	唐草文。唐草は強く巻き込み、一部先端が「Y」字を呈す。唐草は團線と接する。	瓦当成形は瓦当接合。平瓦凹面は糸切り痕、面取り。側縁はケズリ。胎土は少量の砂粒を含み、焼成は硬質で、色調は灰色を呈す。		平安時代 後期	
8		唐草文。唐草が中心から6回反転し先端は巻き込む。左端のみ巻き込みが見られない。2重團線であるが、上部は製作時につぶされている。	瓦当成形は折曲げ。瓦当凹面から平瓦凹面にかけて布目が残る。頸部から平瓦凸面にかけて踵甲き、瓦当裏面には折り曲げ時の成形圧痕がある。外縁ナデ。胎土は少量の砂粒を含み、焼成はやや軟質で、色調は灰白色を呈す。	山城産 か?	平安時代 後期	左半分のみ 遺存

4 まとめ

今回の調査では、法勝寺期の遺構面が良好に遺存していることを確認した。遺構の性格を明らかにすることは困難であるが、調査成果から可能性を考えてみたい。

土坑2・3はほぼ正方位に乗り、形状、規模から東西に並ぶ礎石抜き取り穴とも捉えられる。瓦が多量に出土した溝1を土坑2・3が構成する建物の屋根に葺かれていた瓦群とする解釈も可能であろう。一方で、講堂基壇が同じ七間四面である金堂と同規模であるとすれば、すぐ東側に講堂基壇が想定され、近接した場所に別の礎石建物が存在するとは考えにくい。先述した『兵範記』の指図にも講堂西側には何も描かれていないことから、抜き取り穴とするのは困難であろう。

ただし、法勝寺期と考えられる礎石の出土と、同様の風化した花崗岩の礎石が調査地内に複数残されていた事実からは、付近に間違いなく礎石建物が存在していたことを示している。法勝寺には場所が特定されていない建物も多く、今後、周辺の調査にさらなる注意を払っていきたい。

(西森 正晃)

註

- 1) 杉山信三・梶川敏夫「法勝寺金堂跡発掘調査概要」『法勝寺跡 京都市埋蔵文化財年次報告1974-II』京都市文化観光局文化財保護課、1975年。
「法勝寺金堂跡第II次発掘調査概要」『京都市埋蔵文化財年次報告1975』京都市文化観光局文化財保護課、1976年。
- 2) 『兵範記』仁平2年8月16日条

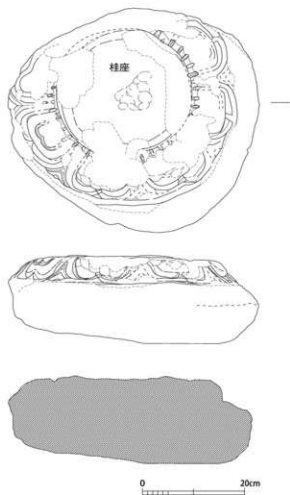


図40 礎石9実測図(1:8)



図41 礎石9



図42 調査地に点在する礎石

V-4 六波羅政庁跡 No.13

1 はじめに

調査地は、東山区大和大路通五条上る山崎町360他に所在する。この地は六波羅政庁跡の北東部にあたり、六波羅蜜寺から南西約10mに位置する。調査地周辺の調査では、旧市立六原小学校内と六波羅蜜寺境内での発掘調査事例¹⁾(調査1～4)、大和大路通と柿町通の交差点付近の立会調査²⁾(調査5)、昭和51年度に五条通と大和大路通の交差点南西にある東山郵便局建設に伴う調査³⁾(調査6)が挙げられる。調査1～4では、平安時代から近世の六波羅蜜寺に関連する遺構・遺物が確認されている。調査5では鎌倉時代の包含層、調査6では平安時代後期から鎌倉時代の建物跡などが検出されている。当該地周辺での顕著な調査成果の大半が六波羅蜜寺関連であり、調査6以外に六波羅政庁跡に関わる顕著な調査事例はない。このような場所で、共同住宅の建設が計画されたため、1月9日に試掘調査を実施した。調査区は計画建物にあわせて、東西方向に設定した。調査面積は18㎡である。



図43 調査位置図(1:5,000)

2 層序と遺構

建物計画範囲において南北1m、東西12mの調査区を設定した。基本層序は、現代盛土の下に、にぶい黄褐色粘質土や褐灰色粘質土、炭化物や土器片を含む褐灰色細砂や粘質土の包含層を挟み、GL-1.5～1.8mで灰黄色細砂や明黄褐色砂礫の地山に至る。遺構検出は地山上面で行った。検出した遺構は、土坑や柱穴、落ち込みなどである。遺構の重複関係から3時期以上の変遷が考えられる。検出した遺構の大半は、近世に形成されたものと判断できた。調査区東端の落ち込みを断ち割った際、この落ち込みに切り込まれる室町時代の土坑(SK01)を確認した。

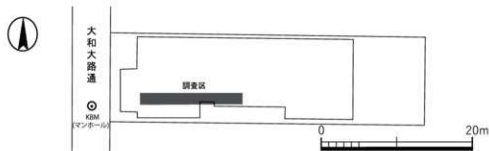


図44 調査区配置図(1:500)

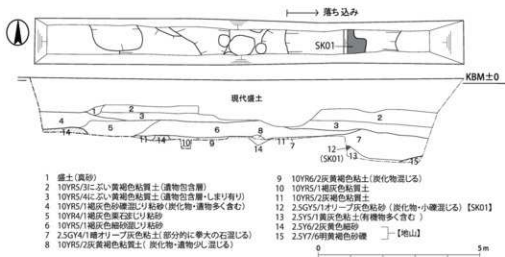


図45 遺構平面・断面図 (1:100)

3 遺物

土坑 (SK01) からは土師器皿がまとめて出土した。1～7は口径11.0～12.6cm, 器高1.9～2.8cmである。8は口径14.8cm, 器高5.0cmを測る。1～4は赤色系土師器, 5～8は白色系土師器で, 口縁部の形状は, 中位から上部がやや厚みを増すもの (1・2) や端部に丸みを持たすもの (3～5), 細く長目にのぼすもの (6～8) などがある。京都VII期中に相当する。

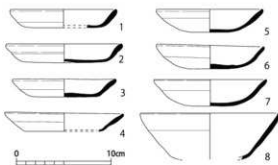


図46 土坑出土遺物実測図 (1:4)

4 まとめ

今回の調査では近世の土坑や落ち込みと室町時代の土坑を確認した。周辺調査でも室町時代の遺構は確認されているものの六波羅蜜寺境内に集中する傾向があり, 今後は境内周辺の室町時代の様相を明らかにしていく必要がある。

(奥井 智子)

註

- 1) 調査1: 未報告。調査2: 財団法人京都市埋蔵文化財研究所「六波羅政庁跡」『昭和56年度京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』, 1983年。調査3: 財団法人京都市埋蔵文化財研究所「六波羅蜜寺境内・六波羅政庁跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2011-6』, 2012年。調査4: 財団法人京都市埋蔵文化財研究所「六波羅蜜寺境内・六波羅政庁跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2013-9』, 2014年。
- 2) 調査5: 財団法人京都市埋蔵文化財研究所『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』, 1996年。
- 3) 調査6: 江谷寛「六波羅政庁跡」『東山郵便局新築敷地埋蔵文化財発掘調査報告』近畿農政局, 1977年。

VI 試掘調査一覧表

平成25年度1～3月

平安宮地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
1	左近衛跡・大宮大路跡・聚楽第跡	上京区大宮通下長者町下る清元町722	3/3	GL-0.6～1.1m以下、土取痕跡。平安時代の遺構は残存せず、聚楽第の濠跡も延長しないことを確認。	17㎡	13K223

平安京左京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
2	七条三坊九町跡・東本願寺前古墓群	下京区瀬訪町通六条下る上柳町215	2/26	GL-1.0mで中世整地層、-1.2m以下地山。	44㎡	13H331
3	八条一坊十六町跡	下京区七条通大宮西人花畑町86, 86-1	1/27	GL-0.5mで中世の遺構群を検出。発掘調査を指導。	35㎡	13H397

平安京右京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
4	二条三坊八町跡・西ノ京遺跡	中京区西ノ京春日町8	1/7	平安時代の整地土と柱穴などを確認。	46㎡	10H507
5	四条四坊九町跡・山ノ内遺跡	右京区山ノ内西裏町11の一部、11-3、11-6	2/17	GL-1.3mにて地山。顕著な遺構、遺物なし。	31㎡	13H330
6	六条一坊十五町跡	下京区中堂寺庄ノ内町46-7、50-2	3/18	GL-1.0～1.4mで地山。調査区北端で平安時代の土器や木製品（櫛や人形代）含む落ち込みを確認。本文18ページ。	47㎡	13H605
7	七条一坊一町跡	下京区朱雀本町35-1	3/17	大半が攪乱であったが、既存建物のない場所ではGL-0.8mで地山を検出。	31㎡	13H640

洛北地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
8	上総町遺跡	北区小山上総町20	3/6,7	対象地において既存建物による攪乱があり。遺構は希薄。	87㎡	13S541
9	衣笠水室町遺跡	北区衣笠水室町43-1、45-4	2/21	GL-0.4mにて明黄褐色砂泥礫混じりの地山。顕著な遺構、遺物なし。	47㎡	13S514
10	雲林院跡	北区紫野雲林院町17、18	2/13	GL-1.0mで黄褐色砂礫の基盤層。上面で室町時代の土坑を2基検出。大半が既存建物による攪乱。発掘調査を指導。	120㎡	13S355

北白川地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
11	法勝寺跡・岡崎遺跡	左京区岡崎南御所町15の一部、15-1の一部、16、17、18-2の一部	3/5	GL-0.75～0.85mで法勝寺期、-1.0～-1.55mで岡崎遺跡の遺構面を確認。本文27ページ。	23㎡	13R626
12	延勝寺跡・岡崎遺跡	左京区岡崎成勝寺町3-2	2/12	GL-1.6mで平安時代の池を確認。発掘調査を指導。	65㎡	13R554

洛東地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
13	六波羅政庁跡	東山区大和大道通五条上る山崎町360他	1/9	GL-1.5～1.8mで灰黄色細砂または明黄褐色砂礫の地山に至る。室町時代から近世の土坑や柱穴、落ち込みなどを確認。設計変更を指導。本文32ページ。	18㎡	13S358
14	山科本願寺跡・左義長町遺跡	山科区西野左義長町34、34-1、34-3、34-4他	3/20	GL-2.0m以上まで解体覆乱。	56㎡	13S569

伏見・醍醐地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
15	極楽寺跡	伏見区深草野手町6-1	1/15	GL-0.8～1.3mで地山。その上は時期不明の湿地堆積。	18㎡	13S097
16	伏見城跡	伏見区鷹匠町33	2/19	GL-0.9～1.0mで地山。江戸時代に属する遺構。遺物のみ。	62㎡	13F587

南・桂地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
17	櫻原遺跡	西京区櫻原釘貫62-1、62-3	2/5	GL-0.5mで黄色粘質土の地山。遺構・遺物なし。	10㎡	13S324

鳥羽地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
18	唐橋遺跡	南区唐橋堂ノ前町22-1、22、22-6、23-1	2/24	GL-0.3mで整地層。-0.35mで古墳時代から奈良時代の遺物を含む湿地状堆積を確認。-0.75mで氾濫堆積。	27㎡	13S527
19	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏見区竹田中内如町37	3/27	GL-1.2mにて鳥羽離宮期と推定される整地層を確認したものの、顕著な遺構、遺物はない。	18㎡	13T667
20	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏見区中島北ノ口町24、25	1/14、15	GL-0.6mで黄褐色シルトの河川堆積。GL-1.6mで青灰色粘土の湿地状堆積を確認。顕著な遺構なし。	135㎡	13T384

長岡京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
21	左京二条四坊五・十一・十二町跡	伏見区久我西出町1-28他	3/24、5.28	各調査区にて長岡京期とそれ以前の遺構を確認。遺構面が良好に残る。設計変更及び一部発掘調査を指導。	399㎡	13NG553
22	左京三条三坊十一町跡・鶴冠井清水遺跡	伏見区久我西出町3-17、3-18、3-19	1/20、21	GL-1.5～2.1mで地山。上面にて長岡京期の条坊側溝、掘立柱建物を確認。設計変更及び一部発掘調査を指導。	118㎡	13NG418
23	左京五条三坊十三町・六条三坊十六町跡	伏見区羽東師古川町407	1/23	顕著な遺構、遺物なし。	47㎡	13NG443
24	左京六条四坊七町跡	伏見区羽東師古川町165-1	2/3	GL-4.3mで地山は確認できず。遺構・遺物なし。	17㎡	13NG552
25	左京六条四坊十二町跡、七条四坊五・六・九・十町跡	伏見区羽東師古川町地先～同区横大路下島地先	3/10～12	顕著な遺構・遺物は確認できず。	231㎡	13NG525

平成26年度 4月～12月

平安宮地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
26	大蔵省跡	上京区千本通一条下る東石橋町26、30-5、東西段屋町642-1、642-9	7/3	GL-2.7～3.5mで地山。	59㎡	14K053
27	大蔵省跡	上京区上長者町通千本西入五番町153、154	5/13	GL-1.1～1.5mで地山。	24㎡	13K651
28	大蔵省跡	上京区仁和寺街道六軒町西入四番町150-5、150-9、150-10	11/11	GL-2.5mで黒ボク土、-2.65mでにぶい黄褐色泥砂礫混じりの地山。平安宮跡に関する遺構は確認出来ず。	13㎡	14K138
29	内蔵寮跡	上京区千本通上長者町下る草堂前之町109	6/24	GL-0.8mで地山。	13㎡	13K700
30	寝松原跡	上京区千本通下長者町下る三番町275、275-1、275-2、276、277	5/13	GL-1.2mで近世遺物包含層、-1.5mで地山を検出。2Tr.GL-1.25mで中世遺物包含層を検出。	35㎡	14K006
31	東雅院跡	上京区日暮通根木町上る柳町708	10/8	GL-1.5m以下、土取穴を検出。	10㎡	14K335
32	中務省跡・聚楽遺跡	上京区中務町486-26	7/22	中務省北築地外溝、大庭遺地層を確認。設計変更を指導。本文3ページ。	9㎡	14K171
33	中務省跡・聚楽遺跡	上京区主税町1132、1133	8/14	GL-0.9mでにぶい黄褐色シルトの基盤層。遺構の大多数は江戸時代の土取穴。	22㎡	14K071
34	修式堂跡・聚楽遺跡	中京区聚楽廻東町20-8	11/21	GL-0.95mで地山。地山直上で流路を検出。(本文6ページ)	16㎡	14K403
35	治部省跡	中京区西ノ京車坂町14-1の一部、14-15、同区聚楽廻西町188-4の一部	11/4	GL-1.0mで宮内道路路面、GL-0.8mで治部省東築地基礎を検出。設計変更を指導。本文12ページ。	30㎡	14K161
36	朝集堂跡・聚楽遺跡	中京区聚楽廻南町25-5	5/29	GL-1.4～1.75mで旧耕作土、-1.5m～2.0mで地山を検出。	20㎡	14K063

平安京東京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
37	一条四坊九町跡・公家町遺跡	上京区京都御苑2	5/26	GL-0.55mの計画深度内で女院御所から大宮御所に至る近世の遺構面を3～4面確認。発掘調査を指導。	11㎡	14H067
38	二条二坊二町跡、二条城北遺跡	上京区丸太町通黒門東入薬屋町536-99他14筆	5/28、7/7、8	現代盛土以下、近世遺構面、平安時代遺構面、地山を検出。平安期の南北溝・土坑を多数検出。また明治期に埋没した堀状遺構を検出。発掘調査を指導。	225㎡	14H032
39	二条三坊四町跡	中京区二条通西洞院東入正行寺町662、同区西洞院通夷川下る薬師町656	6/20	GL-1.5mで地山。地山直上で平安時代末期～鎌倉時代の土坑を検出。攪乱著しい。	39㎡	14H066
40	二条三坊十一町跡	中京区室町通夷川上る鏡屋町39-1、42	9/3、4	中世の遺構面を検出。設計変更を指導。本文16ページ。	43㎡	14H011
41	二条四坊十五町跡	中京区御幸町通竹屋町上る毘沙門町546他	6/9、10	敷地全域で平安時代～中世の遺構面を検出。発掘調査を指導。	105㎡	14H014
42	三条三坊十町跡・二条殿御池城跡	中京区烏丸通御池上る二条殿町548-1・同区両替町通押小路下る金吹町456	9/17	GL-1.5m以下中世以前の整地層と遺構層を検出。発掘調査を指導。	77㎡	14H042
43	三条四坊十五町跡・烏丸御池遺跡	中京区基屋町通御池上る上白山町259、260、262、263	5/19、20	現代盛土以下、近世遺物包含層、中世整地層、平安時代後期整地層、地山が堆積。発掘調査を指導。	37㎡	13H572

44	四条三坊七町跡・姥神町遺跡(南 直寺跡)・烏丸御池遺跡	中央区六角通室町西人玉蔵町130- 1, 132	12/12	GL-1.75mで地山。ただし大半は解 体複乱および近世複乱により、基盤 層まで削平されている。	27㎡	14H387
45	五条一坊五町跡	中央区壬生相合町54-10, 64	9/29	GL-0.45m～-1.1mで部分的に黄褐色 砂泥の整地層及び土坑を検出した が、顕著な遺構・遺物は無し。	70㎡	14H194
46	六条四坊十六町跡	下京区寺町通松原下る植松町714他	12/17	GL-1.15m以下で室町時代・鎌倉時 代～平安時代・平安時代の整地層と 遺構を確認。発掘調査を指導。	50㎡	14H094
47	八条四坊一町跡・御土居跡	下京区七条通間之町東人材木町503 他	7/28～ 30, 8/6, 7,12/2 4, 25	各Trにて中世2時期、平安後期以 前の4時期の遺構面を確認。発掘調 査を指導。	480㎡	14H023
48	八条四坊八町跡・御土居跡	下京区小稲荷町ほか地内	7/22	GL-1mで近世整地層、-1.1mで洪 水由来の砂礫が堆積。	38㎡	13H574
49	九条二坊十六町跡・御土居跡	南区西九条北ノ内町6.7.8-1	4/15, 16	GL-1mで中世以前に遡る遺構群を 検出。発掘調査を指導。	313㎡	13H485
50	九条三坊五町跡・烏丸町遺跡	南区東九条下殿田町24	5/7, 8	GL-0.9～-1mまで近世耕作土が堆積。	72㎡	13H588

右京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
51	北辺二坊五町跡・御土居跡	北区大将軍川端町40	6/13	GL-0.65mで地山を検出。	40㎡	14H016
52	一条二坊三町跡	上京区御前通下立売上天満原町 327-1, 329	11/19	GL-0.65mで平安時代から中世遺物 包含層、-1.05mで地山を検出。西 大宮大路間逆溝を検出。	25㎡	14H369
53	一条四坊四町跡	右京区花園中御門町11, 11-7	11/10	GL-0.3～-0.45mにて平安時代前期～ 中期にかけての遺構群を確認。設計 変更を指導。	39㎡	14H306
54	一条四坊七町跡、史跡妙心寺境内	右京区花園妙心寺町62-1	9/19	東から西へ落ちる旧地形と近世造成 土を検出。	15㎡	26N019
55	二条二坊四町跡	中央区西ノ京冷泉町135-2,136- 2,138-1,138-2,138-3,140の一部	12/15	西大宮川とみられる南北溝(河川) を検出。取扱い協議中。	18㎡	14H453
56	二条四坊一町跡	右京区花園中御門町8-7～10, 8-12	10/20	GL-0.2～-0.3mで地山、-0.2mで井戸 を検出。	38㎡	14H176
57	三条一坊一町跡・壬生遺跡	中央区西ノ京星池町221, 222, 223	6/3	GL-1.0mで地山。顕著な遺構・遺物 なし。	31㎡	14H099
58	三条一坊十一町跡・壬生遺跡	中央区西ノ京東月光明町30-8, 30-11 他	5/21	計画建物範囲は、GL-0.47mまで解 体複乱及び盛土が堆積している。	45㎡	13H600
59	三条二坊十二町跡・西ノ京遺跡	中央区西ノ京新建町3他	10/23	GL-1mで中世～近世にかけての遺 物包含層、-1.8mで西堀川の氾濫堆 積を確認。取扱い協議中。	79㎡	14H172
60	三条四坊六町跡	右京区山ノ内宮脇町14-1,14-2	4/22	GL-0.4～-0.5mで地山。柱穴等平安 時代の遺構検出。発掘調査を指導。	33㎡	13H710
61	三条四坊十町跡	右京区太秦安井西沢町7-1, 7-12, 7-27, 7-29, 7-31	4/21	GL-1.0m以下地山。敷地西端で無差 小路東側溝と考えられる溝2条を検 出するが、遺物なし。	73㎡	13H579
62	六条二坊八町跡	中央区壬生東高田町1-2	5/12	GL-1.0～-1.85mで地山を検出。	32㎡	14H036
63	六条二坊四町跡	下京区西七条赤土町13-1	4/9	GL-0.5～-0.75mにて黄褐色シルトの 地山。顕著な遺構、遺物無し。	32㎡	13H532
64	六条三坊十二町跡	右京区西京極北庄境町31	9/24	GL-1.2mにて六条大路北側溝を確認。 取扱い協議中。	37㎡	14H297

65	六条三坊十四町跡	右京区西院六反田町2, 27	8/18	GL-0.2mで弥生時代の土坑1基と時期不明の溝を多数確認。設計変更を指導。	78㎡	14H151
66	六条三坊十四町跡	右京区西院六反田町49, 50-1・2, 51-1	11/26	弥生時代から古墳時代の溝・落込みを確認。遺構・遺物は希薄であった。	36㎡	14H363
67	七条二坊十五町跡	下京区西七条掛越町26-1	4/30	地山上面にて平安時代の南北溝、井戸を確認。平成26年度詳細文応調査報告書を参照。	53㎡	13H662
68	八条三坊一町跡・衣田町遺跡	下京区西七条南月読町9, 12, 同区七条御所ノ内西町3	12/19	顕著な遺構・遺物なし。	24㎡	14H422
69	九条一坊二町跡	南区唐橋赤金町1-2の一部	12/2	遺構・遺物無し。	23㎡	14H321
70	九条一坊十一町跡・史跡西寺跡	南区唐橋西寺町58-1	4/10	GL-0.37mで西寺整地層。	13㎡	25N082
71	九条三坊十町跡	南区吉祥院西ノ庄西中町44-3, 45-1, 45-2, 45-3, 46-4, 46-10, 46-11	5/28	GL-0.7m以下、河川の氾濫堆積で平安時代に遡る遺構・遺物なし。	22㎡	14H102

太秦地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
72	総蛾遺跡	右京区総蛾二尊院門前北中院町2他	5/16	GL-0.3mで平安～中世の遺構を検出。	18㎡	13S669
73	総蛾遺跡	右京区総蛾天龍寺北造路町1	6/18	GL-0.2m以下、中世整地層及び地山。両層で室町時代の遺構を多数確認。発掘調査を指導。	97㎡	13S689
74	史跡名勝嵐山	右京区総蛾小倉山町3	4/14	現地表面で江戸時代礎石掘え付け穴。GL-0.15mで改修前本堂の成立面と土坑1基（いずれも江戸時代）を検出。	7㎡	25N021
75	史跡名勝嵐山	右京区総蛾天龍寺芒ノ馬場町3-25	5/15	GL-0.3m以下、中近世の整地層を検出。	4㎡	25N074
76	史跡名勝嵐山	西京区嵐山茶炭町24-1, 24-6	10/30	-0.4mまで現代盛土以下-1.0mまで耕作土（中世）と氾濫堆積由来の砂層の互層。-1.0m以下砂礫氾濫堆積層。敷地南端は氾濫堆積層が厚く、-0.27mで中世耕作土層、-0.51m以下氾濫堆積層を確認。	10㎡	26N044
77	史跡名勝嵐山	西京区嵐山中尾下町20-52	10/30	GL-2.9mまで現代盛土。	6㎡	26N040
78	梅津坂本町遺跡	右京区太秦持田町1-3の一部	5/1	調査区中央から南側にかけてGL-0.15mで遺物包含層、-0.2mで河川堆積を確認。	38㎡	14S010
79	松本古墳群	右京区太秦松本町5-36	8/12	GL-0.35mで天塚古墳周溝と関係する可能性がある溝を検出。本文21ページ。	16㎡	14S252

洛北地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
80	北野天満宮	上京区馬喰町931	4/24, 25	GL-0.4m以下、黄褐色系の地山。近世中頃以降の土坑、柱穴を多数検出。	37㎡	13S542
81	北野遺跡	北区北野東紅梅町10	7/2	GL-0.15mで時期不明の土坑数基と中世の遺物包含層を検出。	32㎡	14S054
82	上京遺跡	上京区上立売通堀川東入堀之上町13, 13-3, 11	5/23	GL-1.0～1.3mで地山。1Trで16世紀代の土坑1基検出。近世の土坑多数あり。	42㎡	14S076

83	上京遺跡	上京区烏丸通今出川下る親三橋町561他	6/16	GL-0.8mで室町時代後半の遺物包含層、GL-1.4mで地山。掘乱多い。	81㎡	14S050
84	史跡賀茂別雷神社境内	北区上賀茂山本339	9/25	現存拝殿の礎石据付状況を確認。 本文24ページ。	1㎡	26N049
85	植物園北遺跡	北区上賀茂向陽手町42	5/14	GL-0.5mで堅穴建物を検出した。設計変更を指導。	24㎡	14S012
86	植物園北遺跡	北区上賀茂桜井町67他	4/7	GL-1.2mで灰色砂礫の基盤層。顕著な遺構、遺物なし。	20㎡	13S476

北白川地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
87	池田町古墳群	左京区北白川上池田町20-1	10/29	GL-0.9mで明黄褐色粗砂の地山であるが、大半が地山直上まで現代擾乱が及ぶ。	21㎡	14S374
88	白河街区跡・岡崎遺跡・東光寺跡	左京区岡崎天王町27、51-3、51-5の一部	10/31	弥生時代、平安時代後期～室町時代の遺構、遺物を確認。 設計変更を指導。	72㎡	14S165
89	法勝寺跡・岡崎遺跡	左京区岡崎南御所町6・7	10/21	GL-0.5～0.7mで地山を検出。地山直上で溝とピットを確認。	43㎡	14R184
90	尊勝寺跡・岡崎遺跡	左京区岡崎最勝寺町5-3、5-4、5-7	9/8、22	弥生時代の溝、土坑、尊勝寺阿房陀堂基壇を確認。 発掘調査を指導。	83㎡	14R139
91	得長寺院跡・白河街区跡・岡崎遺跡	左京区岡崎徳成町4	7/25	GL-0.5mで厚さ0.1mほどの平安時代の遺物包含層を検出。	14㎡	14R174
92	岡崎遺跡	左京区南禅寺下河原町53-1、53-2	10/15	GL-2.3mまで現代盛土。以下に緑灰色から灰白色の粗砂の地山を検出。	35㎡	14S162

洛東地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
93	六波羅政庁跡	東山区大黒町通五条上染上大黒町304-1	5/2	GL-0.55mにて時期不明包含層、-1.9mにて氾濫堆積層。	33㎡	13S458
94	山科本願寺南殿跡	山科区音羽伊勢宿町32-34	9/11	敷地の西半でGL-0.4mで溝や柱穴を確認。東半では、GL-0mで土塁の基部とみられる遺構を確認。 東半発掘調査、一部設計変更を指導。	28㎡	14S279
95	大宅庵寺	山科区大宅島井脇町1-1-8、2-2	7/14	GL-0.75mで地山を検出。	21㎡	14S197
96	中臣遺跡	山科区栗柄野打越町33、34-1、35-1・同区勸修寺東栗柄野町1-3	9/1	GL-1.3mで地山。顕著な遺構、遺物無し。	20㎡	14N132
97	中臣遺跡	山科区勸修寺東栗柄野町3-1	8/4	地山はGL-0.5で明褐色シルト層、GL-1.1mで灰色砂礫層を検出。	30㎡	14N096
98	中臣遺跡	山科区西野山中臣町190、191、199、200	9/25	GL-0.5mで地山。	96㎡	14N178
99	中臣遺跡	山科区勸修寺西金ヶ崎244	9/26	GL-0.4～0.6mで堅穴建物と柱穴等を検出。 発掘調査を指導。	20㎡	14N177
100	中臣遺跡	山科区勸修寺東金ヶ崎町46の一部	10/3	GL-2.4mまで現代盛土。	5㎡	14N118
101	史跡随心院境内	山科区小野御霊町49、49-3	5/9	GL-0.6mで地山。室町時代の土坑3基ほかを検出。	22㎡	25N081

伏見・醍醐地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
102	伏見城跡	伏見区桃山町正宗11-6、34	8/26	伏見城期の礎石・瓦溜りと整地層を確認。 発掘調査を指導。	40㎡	14F228
103	伏見城跡	伏見区桃山町遙山68-1	6/5、7/16	GL-2.1mで伏見城期の焼土を含む層を検出。GL-2.4mで7世紀の遺構群を検出。 設計変更を指導。	33㎡	13F665

104	伏見城跡	伏見区桃山岡井伊東町47-6	10/17	北側の一部で近世整地層を確認したが調査範囲の大半が削平。	33㎡	14F327
105	伏見城跡	伏見区下板橋町630.630-1.630-3.630.6.630.7.630-8	6/25, 26, 10/1	伏見城期の東西溝をGL-0.5mで検出。設計変更を指導。一部発掘調査を指導。	146㎡	14F008

南・桂地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
106	上久世遺跡	南区久世上久世町388-1他	8/1	GL-0.5mで弥生時代～古墳時代前期の土器破片を含む自然流路を検出。	25㎡	14S227
107	中久世遺跡	南区久世中久世町2丁目102の一部	4/14	GL-0.9mで中世の包含層を検出。	49㎡	13S502
108	櫻原遺跡・塚ノ本古墳	西京区櫻原塚ノ本町1-73	6/30	GL-0.5mで砂礫の地山と南北にのびる流路を検出。	16㎡	14S113
109	櫻原遺跡・塚ノ本古墳	西京区櫻原塚ノ本町1-72	6/30	GL-0.5mで砂礫の地山と南北にのびる流路を検出。	17㎡	14S114
110	櫻原遺跡・塚ノ本古墳	西京区櫻原塚ノ本町10-1	6/23	GL-0.7m以下、洪水・湿地堆積確認。	24㎡	14S059

鳥羽地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
111	鳥羽離宮跡	伏見区竹田真桶木町53の一部、54	7/31, 8/13	GL-1.3mでピットを確認。ただし、ほかに顕著な遺構・遺物なし。	25㎡	14T224
112	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏見区中島北口23, 24, 25	11/5	GL-0.45mで13次調査検出の「打」を確認。	80㎡	14T244
113	鳥羽離宮跡	伏見区中島中道町116, 116-1・2・3, 117, 118-1・2・3, 122-1・2, 142, 143, 144	6/6	GL-1.6mまで湿地状堆積を確認。	11㎡	14T100
114	鳥羽離宮跡	伏見区中島河原田町62, 63, 64-1, 64-2, 65, 66-1, 127-1	9/16	GL-2.1mまで現代盛土であることを確認。	3㎡	14T272
115	芥川城跡	伏見区下鳥羽渡瀬町185, 185-1	6/11	GL-1.23mで旧耕作土、-1.7mで湿地堆積を確認。	24㎡	13S666
116	久我神社	伏見区久我森ノ宮町8-129	10/9	表土以下、湿地状堆積を確認。	11㎡	14S124
117	久我東町遺跡	伏見区羽束師鴨川町80-1	10/16	GL-0.65mまで現代耕作土。以下に湿地状堆積を確認。	34㎡	14S152

長岡京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	調査面	受付番号
118	北辺三坊七・十町跡、大蔵遺跡	南区久世殿城町555他、南区久世大蔵町358他	11/12 ～14	1・4Tr.で弥生時代の整穴建物、溝、土坑、ピット等を、2・3Tr.で長岡京期の南北溝を確認。一部発掘調査を指導。	312㎡	14NG288
119	左京二条三坊八町・九町跡・鶴冠井遺跡	南区久世世上田町180-5・6・7, 182, 182-4, 183, 183-1・2, 185-1, 186-1, 187-1, 507	12/10, 11	GL-1.52mで一条大路南側溝を検出。取扱い協議中。	101㎡	14NG438
120	左京三条四坊十二町跡	伏見区久我西出町13-3・4	5/30	GL-0.92mで中近世耕土、-1.3mで地山を検出。	25㎡	13NG628
121	左京四条三坊四・五町跡	伏見区羽束師菱川町156, 157-1, 158-1, 169-2	10/27	耕土直下で中世包含層、GL-0.25～0.75mで灰色砂礫の地山を検出。	29㎡	14NG353

表2 遺物概要表

点数及び箱数	Aランク点数	内訳	Bランク箱数	Cランク箱数	出土箱数合計
	26点(3箱)		弥生土器1点, 土師器10点, 須恵器3点, 陶磁器1点, 瓦器1点, 瓦7点, 木製品2点	2	

報告書抄録

ふりがな	きょうとしなにいせきしくつちようさほうこく							
書名	京都市内遺跡試掘調査報告 平成26年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・堀大輔・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2015年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安宮中務省跡・ 聚楽遺跡	京都市上京区 中務町486-26	26100	2 237	35度 01分 07秒	135度 44分 44秒	2014/7/22	9㎡	共同住宅
平安宮朝堂院跡・ 聚楽遺跡	京都市中京区 聚楽廻東町20-8	26100	2 237	35度 00分 58秒	135度 44分 32秒	2014/9/3,4	16㎡	共同住宅
平安宮治部省跡	京都市中京区 西ノ京車坂町14-1の 一部、14-15、同区聚楽 廻西町188-4の一部	26100	2	35度 00分 57秒	135度 44分 20秒	2014/11/4	30㎡	共同住宅
平安京左京二条 三坊十一町跡	京都市中京区 室町通夷川上る鏡屋町 39-1,42	26100	1	35度 00分 55秒	135度 45分 29秒	2014/8/12	43㎡	共同住宅
平安京右京六条 一坊十五町跡	京都市下京区 中堂寺庄ノ内町46-7、 50-2	26100	1	35度 00分 55秒	135度 45分 29秒	2014/3/18	47㎡	共同住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
平安宮中務省跡・ 聚楽遺跡	宮殿跡 集落跡	平安時代 弥生～古墳時代	中務省北築地外溝・ 大庭整地層		土師器、須恵器、瓦など		地中保存	
平安宮朝堂院跡・ 聚楽遺跡	宮殿跡 集落跡	平安時代 弥生～古墳時代	流路		須恵器		—	
平安宮治部省跡	宮殿跡	平安時代	路面(宮内道路)・治部省 東端築地基礎		瓦・緑輪陶器		地中保存	
平安京左京二条 三坊十一町跡	都城跡	平安時代	溝・土坑・ピットなど		土師器、瓦器、焼輪陶器など		地中保存	
平安京右京六条 一坊十五町跡	都城跡	平安時代	流路		土師器、須恵器、瓦、木製品 (櫛・人形など)		—	

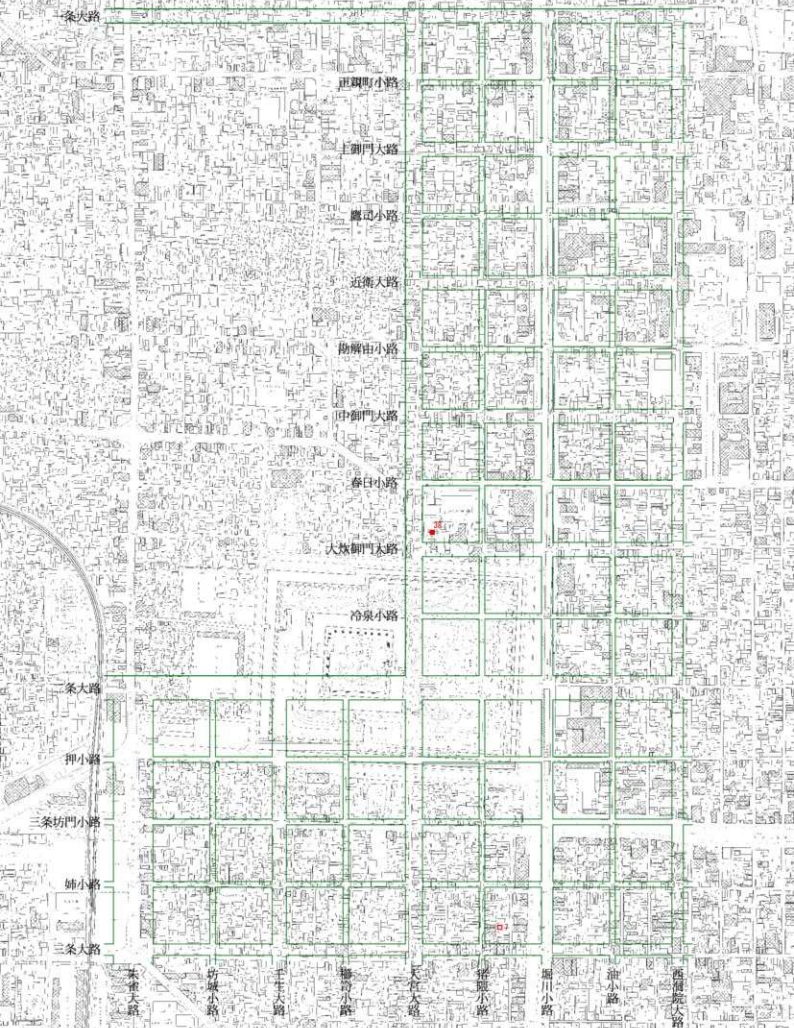
報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしくつちょうさほうこく							
書名	京都市内遺跡試掘調査報告 平成26年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編者名	馬瀬智光・堀大輔・家原主太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・赤松佳奈・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2F							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2015年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
松本古墳群	京都市右京区 太秦松本町5-36	26100	888	35度 00分 07秒	135度 42分 41秒	2014/8/12	16㎡	個人住宅
史跡賀茂別雷神社境内 (上賀茂神社)	京都市北区 上賀茂本山339	26100	A112	35度 03分 34秒	135度 45分 13秒	2014/9/25	1㎡	社殿修理
法勝寺跡・ 岡崎遺跡	京都市左京区 岡崎南御所町15の一部、 16,17,18-2の一部、 15-1の一部	26100	417-01 418	35度 00分 51秒	135度 47分 09秒	2014/3/5	23㎡	個人住宅
六波羅政庁跡	京都市東山区 大和入路通五条上る 山崎町360ほか	26100	540	34度 59分 48秒	135度 46分 19秒	2014/1/9	18㎡	共同住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
松本古墳群	古墳	古墳時代	溝	特になし		—		
史跡賀茂別雷神社境内 (上賀茂神社)	史跡		礎石	特になし		—		
法勝寺跡・ 岡崎遺跡	寺院跡 集落跡	平安時代 古墳時代	溝・土坑・ピット・ 地業又は落ち込み	土師器・瓦		地中保存		
六波羅政庁跡	都城跡 邸宅跡	平安時代後期～ 鎌倉時代	溝・土坑・ピットなど	土師器、国産陶器、瓦など		地中保存		

図 版

凡 例

- 平成 26 年 1 ～ 3 月 試掘調査地点
- 平成 26 年 4 ～ 12 月 試掘調査地点



一条大路

正御門小路

上御門大路

藤司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

一条大路

押小路

三条坊門小路

姉小路

三条大路

朱雀大路

坊城小路

千生大路

藤司小路

天石大路

猪股小路

堀川小路

油小路

西御院大路



一条大路

六角小路

四条坊門小路

錦小路

四条大路

綾小路

五条坊門小路

高辻小路

五条大路

樋口小路

六条坊門小路

桐梅小路

六条大路

朱雀大路

坊城小路

壬生大路

橘小路

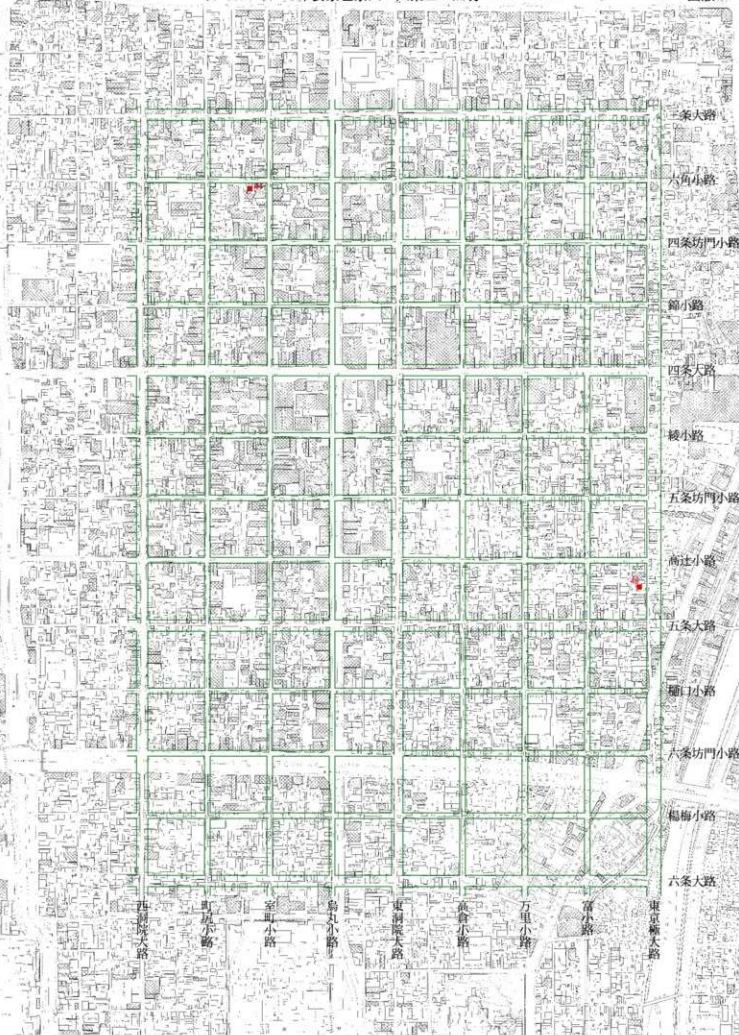
大君大路

猪俣小路

堀川小路

油小路

西洞院大路



三条大路

六角小路

四条坊門小路

錦小路

四条大路

綾小路

五条坊門小路

高辻小路

五条大路

樋口小路

六条坊門小路

楊梅小路

六条大路

西御所大路

町屋小路

至町小路

烏丸小路

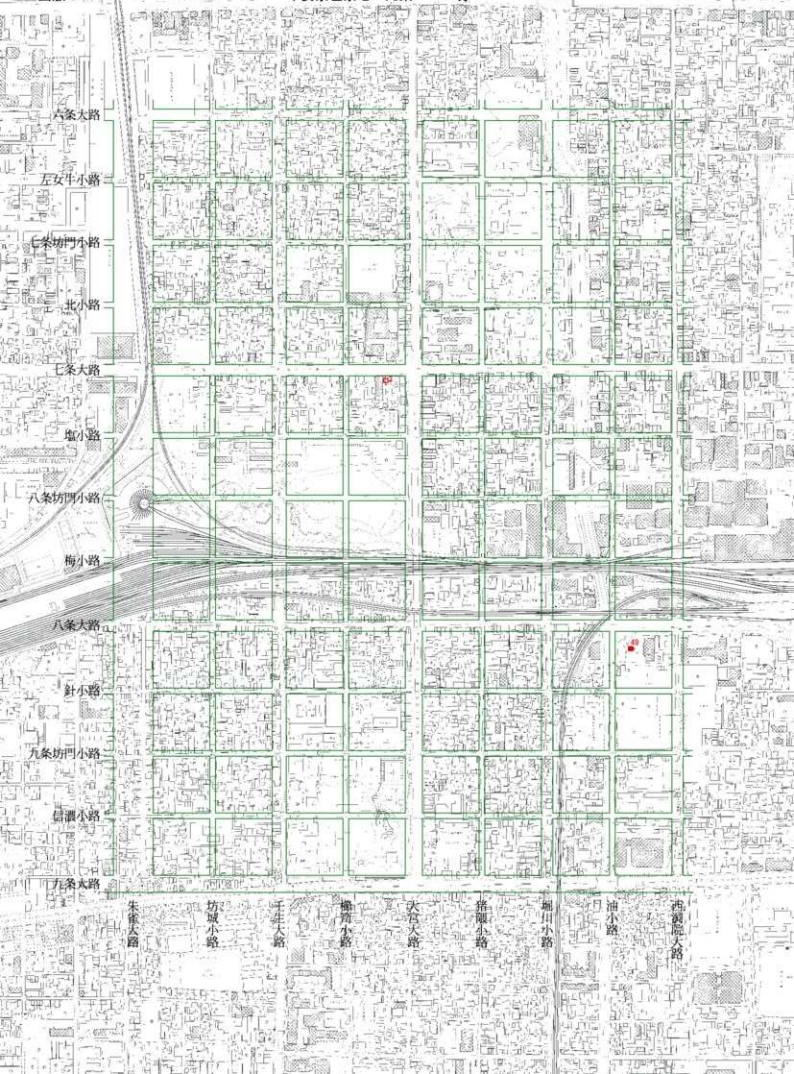
東洞院大路

高倉小路

万里小路

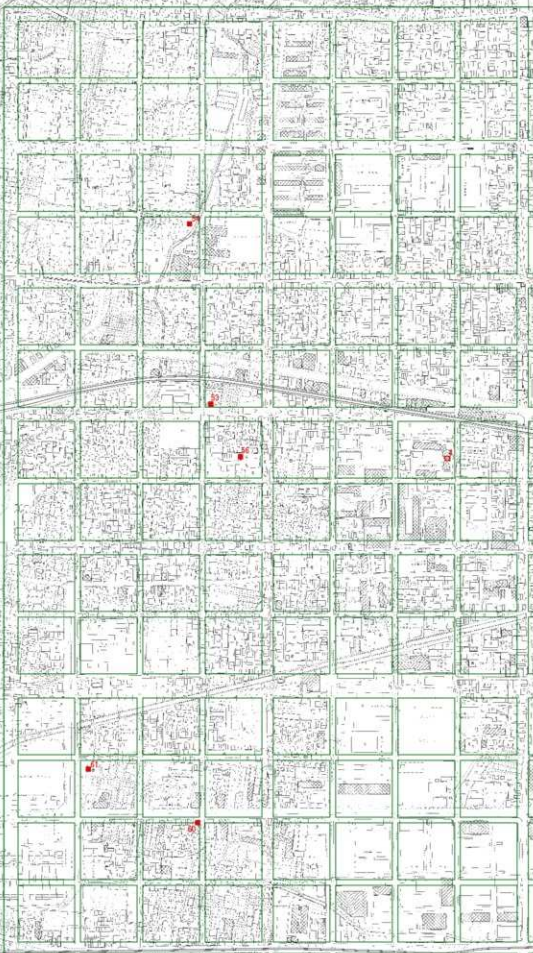
富小路

東京橋大路

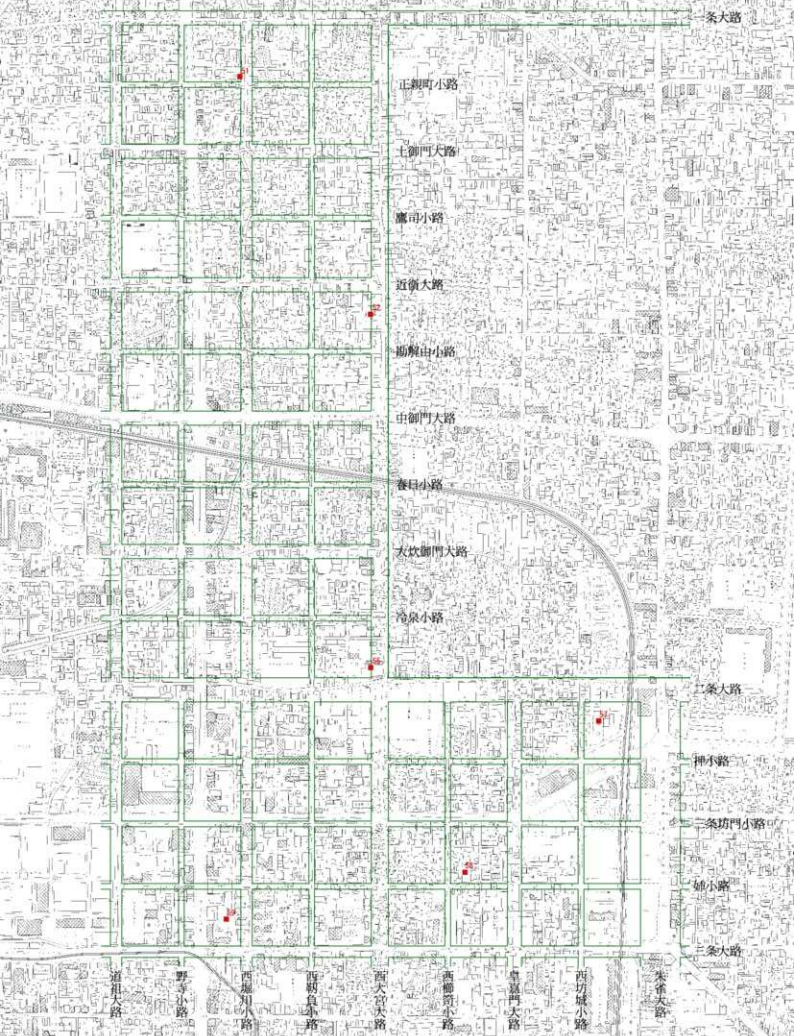




一条大路
 正親町小路
 上御門大路
 鷹司小路
 近衛大路
 勘解由小路
 中御門大路
 春日小路
 大炊御門大路
 浄泉小路
 一条大路
 押小路
 三条坊門小路
 姉小路
 三条大路



西京極大路
 無差小路
 山小路
 高瀬小路
 木辻大路
 車止利小路
 夷代小路
 宇多小路
 道祖大路



一条大路

正親町小路

土御門大路

鷹司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

二条大路

神小路

三条坊門小路

姉小路

三条大路

道祖大路

野寺小路

西展用小路

西朝倉小路

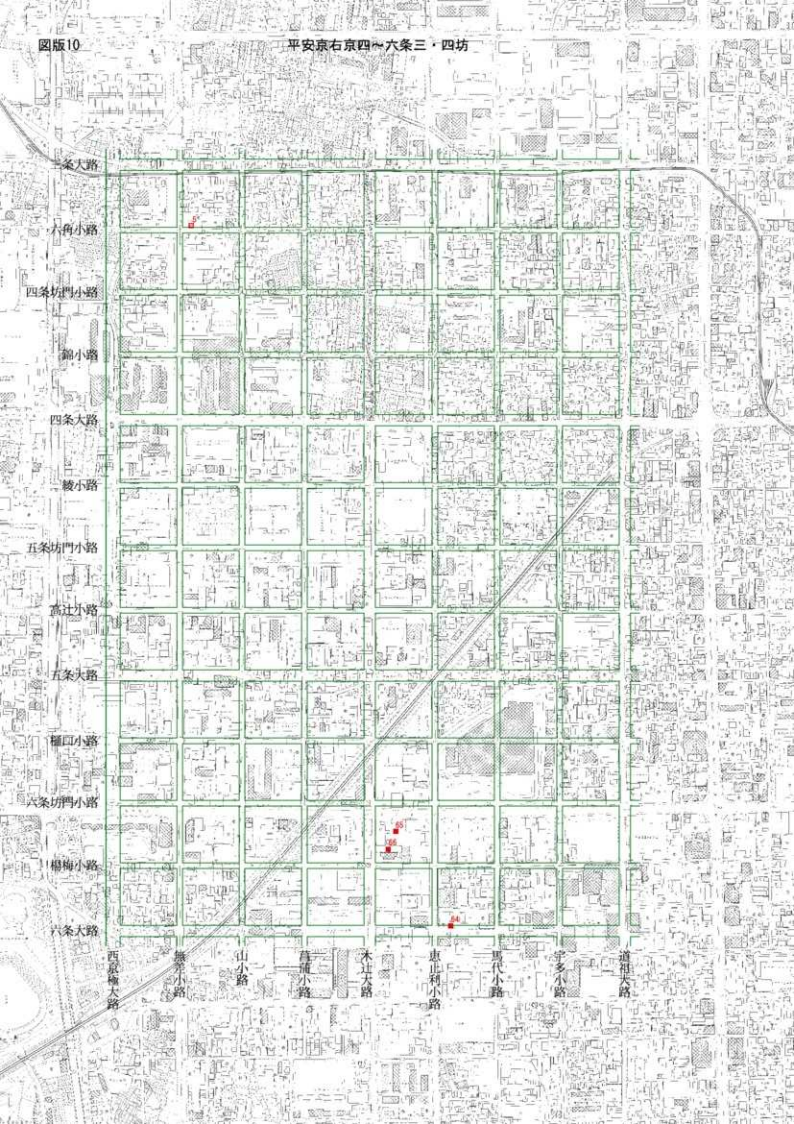
西大宮大路

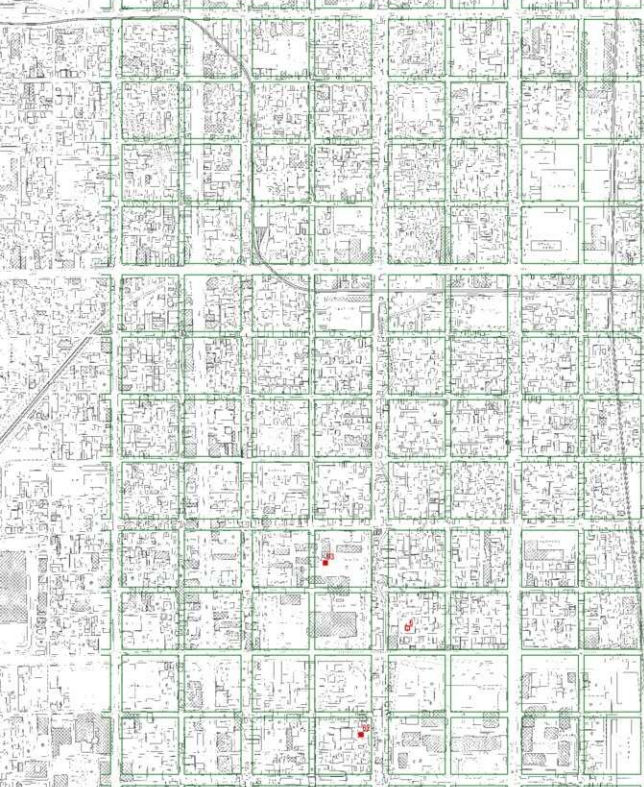
西御前小路

西宮門大路

西坊城小路

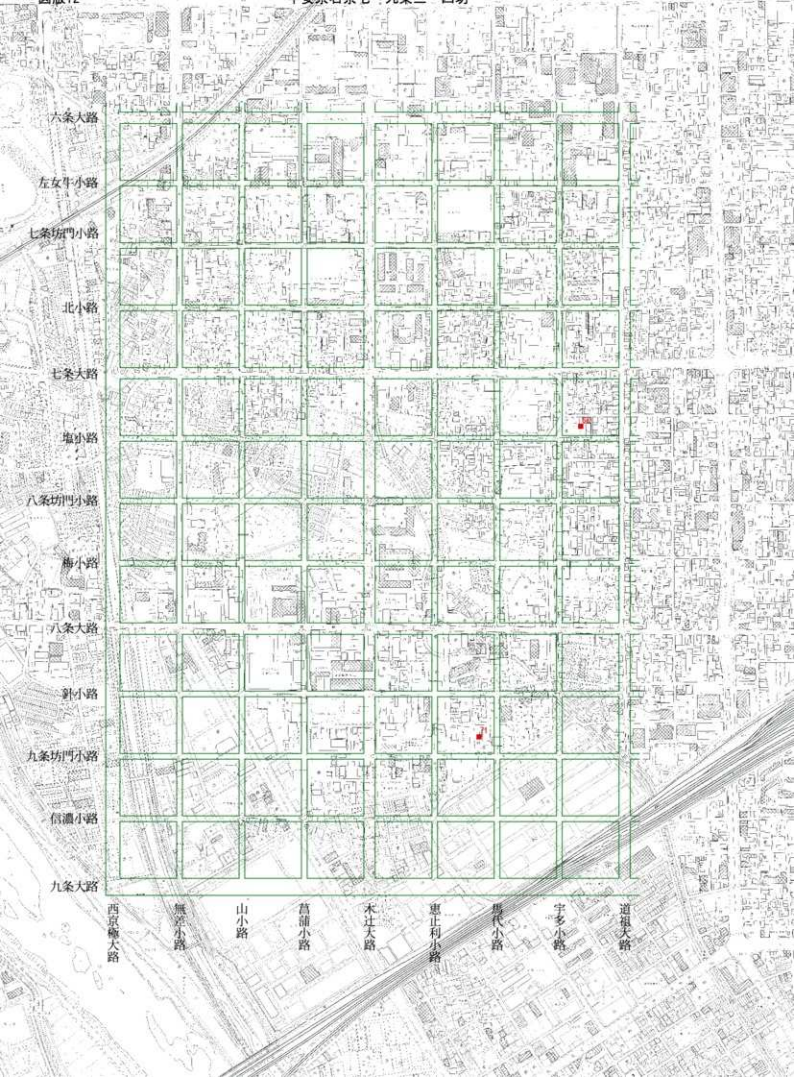
朱雀大路





一条大路
六角小路
四条坊門小路
節小路
四条大路
綾小路
五条坊門小路
高辻小路
五条大路
樋口小路
六条坊門小路
楊梅小路
六条大路

道相大路
野寺小路
西堀川小路
西朝真小路
西大宮大路
西御前小路
屋敷門大路
西坊城小路
朱雀大路



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

堀小路

八条坊門小路

堀小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

西京極大路

無差小路

山小路

舊舖小路

木辻大路

惠止利小路

馬代小路

宇多小路

道祖大路



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

道祖大路

野寺小路

西墨川小路

西物負小路

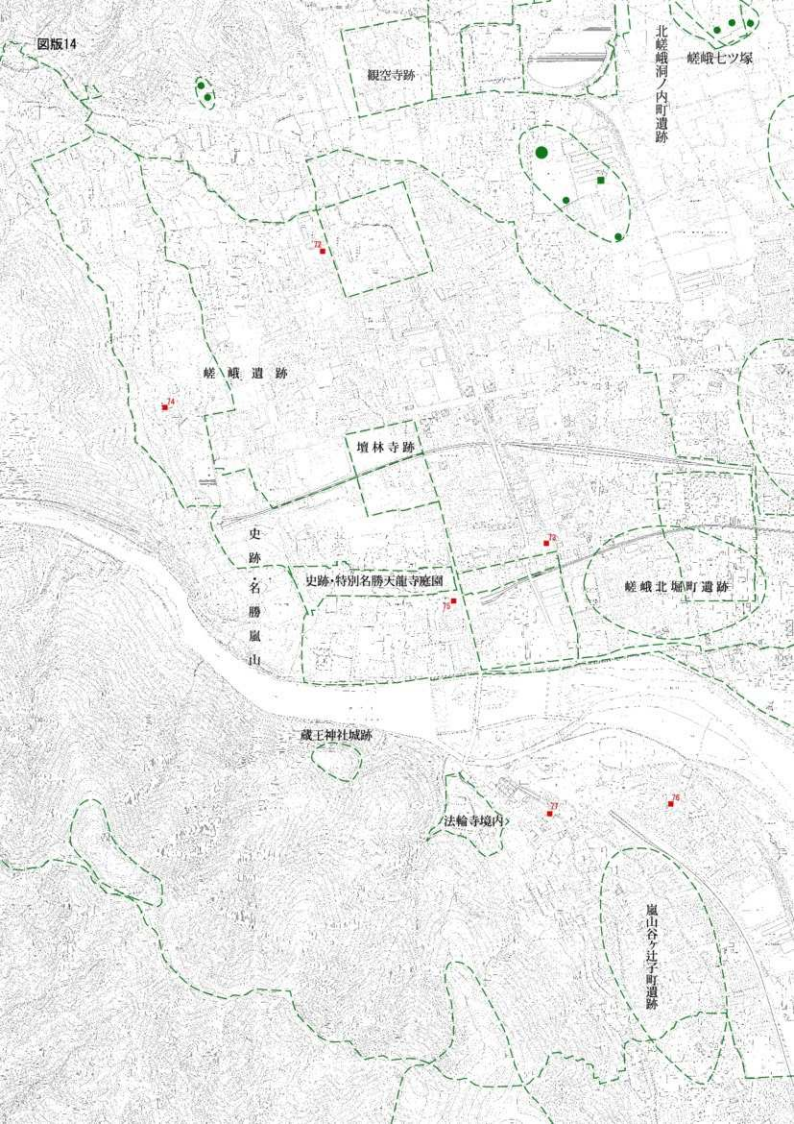
西大宮大路

西彌奇小路

皇宮門大路

西坊城小路

朱雀大路



観空寺跡

北嵯峨洞ノ内町遺跡

嵯峨七ツ塚

嵯峨遺跡

増林寺跡

史跡・名勝嵐山

史跡・特別名勝大龍寺庭園

嵯峨北堀町遺跡

蔵王神社城跡

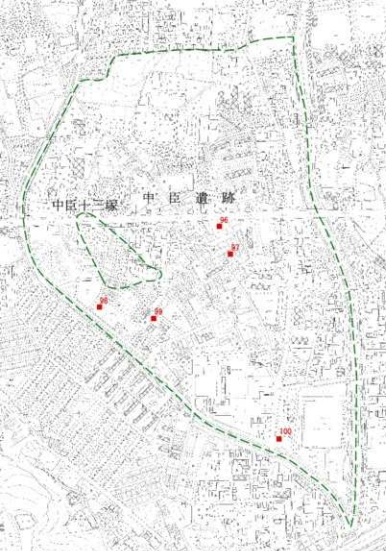
法輪寺境内

嵐山谷々辻子町遺跡



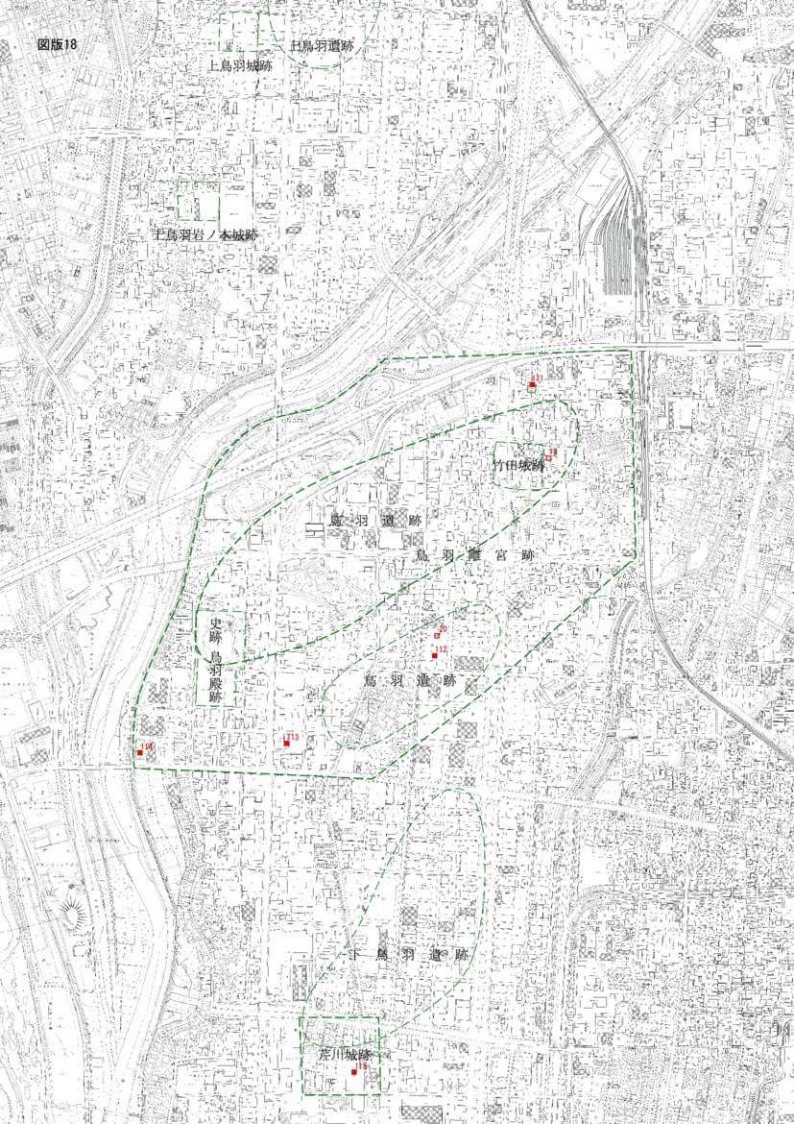
図版 15





図版17





上鳥羽遺跡

上鳥羽城跡

上鳥羽岩ノ本城跡

竹田城跡

鳥羽遺跡

鳥羽離宮跡

史跡
鳥羽殿跡

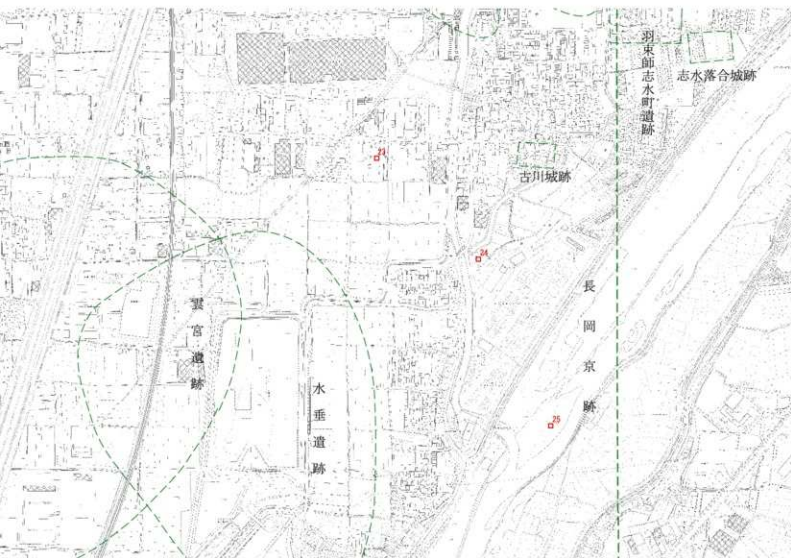
鳥羽遺跡

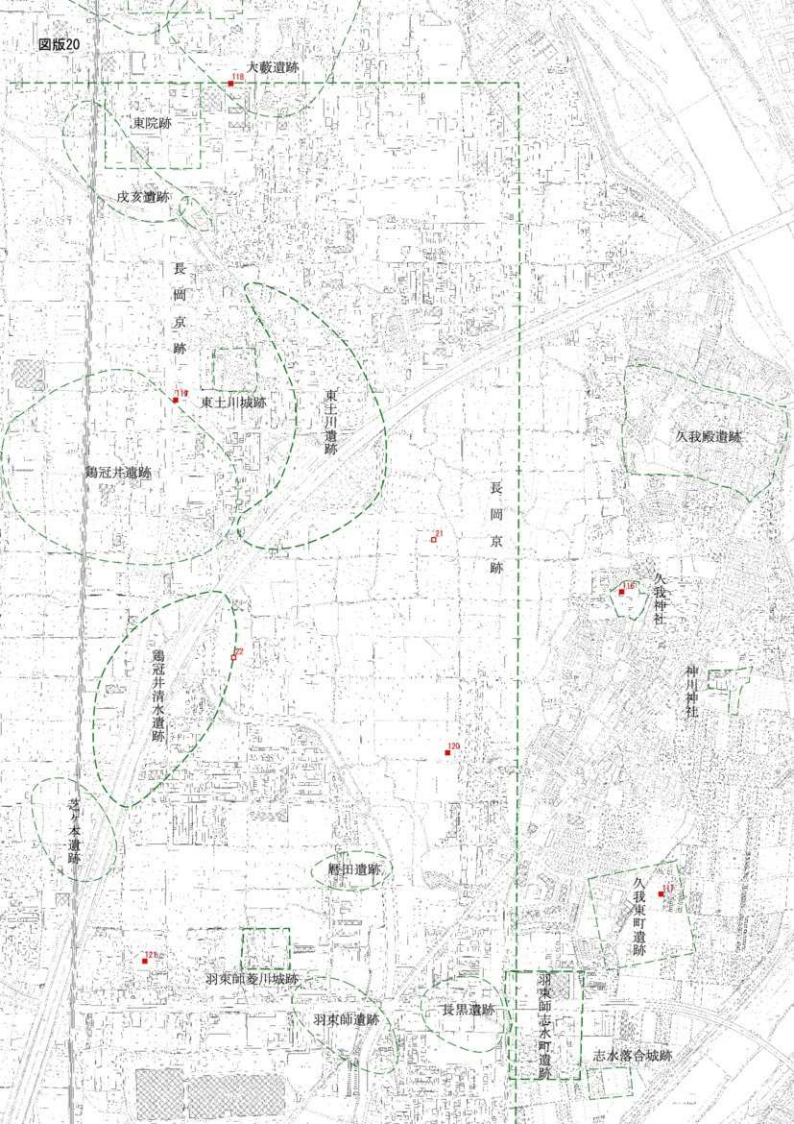
下鳥羽遺跡

彦川城跡



図版19





大藪遺跡

東院跡

戊亥遺跡

長岡京跡

東土川城跡

東土川遺跡

鷺冠井遺跡

長岡京跡

久我殿遺跡

久我神社

神川神社

鷺冠井清水遺跡

芝川本遺跡

縣田遺跡

久我東町遺跡

羽東師菱川城跡

長黒遺跡

羽東師志水町遺跡

志水落合城跡

羽東師遺跡

京都市内遺跡試掘調査報告

平成26年度

発行日 2015年3月31日
京都市印刷物 第263247号

発行 京都市文化市民局

編集 京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課

住所 京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地
Y・J・Kビル2階

TEL.(075)366-1498

印刷 奥田印刷株式会社
TEL.(075)441-7060

